

定点把握疾病（五類感染症）の状況

※令和元(2019)年は52週、令和2(2020)年は53週での比較です。

定点当たり報告数の比較について

報告数を比較する際には、結核・感染症発生動向調査情報の月報における解析情報の表現と同様に、その比の値により、以下のような表現で記載します。

報告数の比の値

1.50倍以上	大幅に高い水準
1.25～1.49倍	かなり高い水準
1.10～1.24倍	やや高い水準
0.90～1.09倍	ほぼ同様の水準
0.75～0.89倍	やや低い水準
0.50～0.74倍	かなり低い水準
0.49倍以下	大幅に低い水準

警報・注意報レベルの基準値

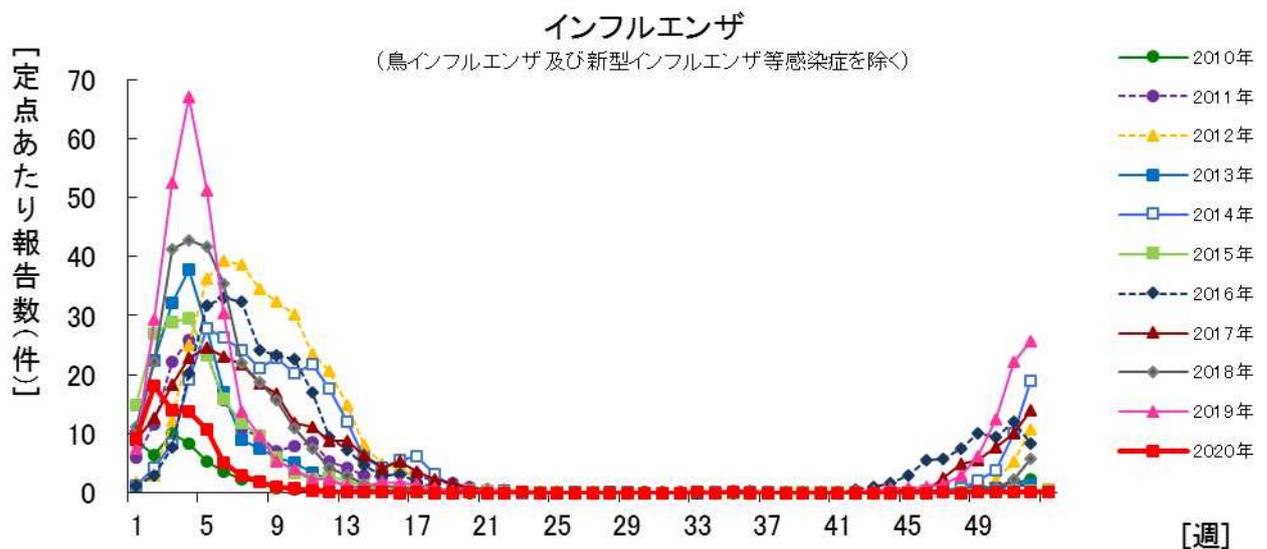
疾病名	警報		注意報
	開始基準	終息基準	
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	—
感染性胃腸炎	20	12	—
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	—
伝染性紅斑	2	1	—
ヘルパンギーナ	6	2	—
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	—
流行性角結膜炎	8	4	—

1. インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

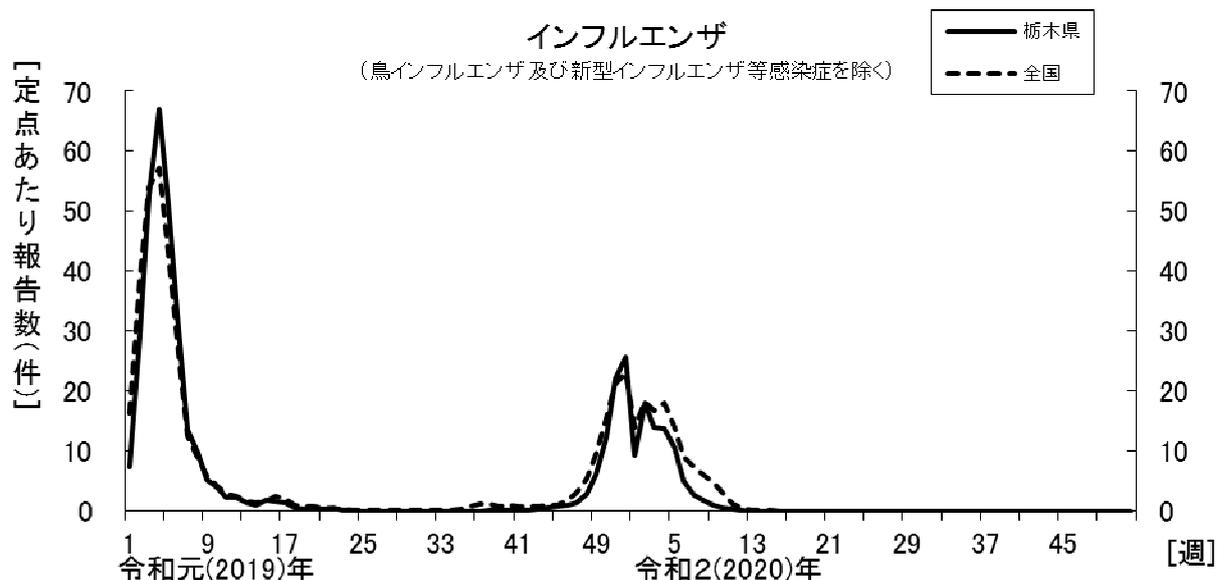
令和2（2020）年の総報告数は5,950件で、令和元（2019）年（27,381件）と比較すると0.22倍と大幅に減少しました。19-20シーズンでは令和元（2019）年第50週（12/9～12/15）に注意報レベルを超え、令和元（2019）年第52週（12/23～12/29）をピークとする報告数の増加が見られました。年齢階級別では、0～9歳が45.4%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県78.29、全国114.29で、全国と比較して0.69倍とかなり低い水準でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



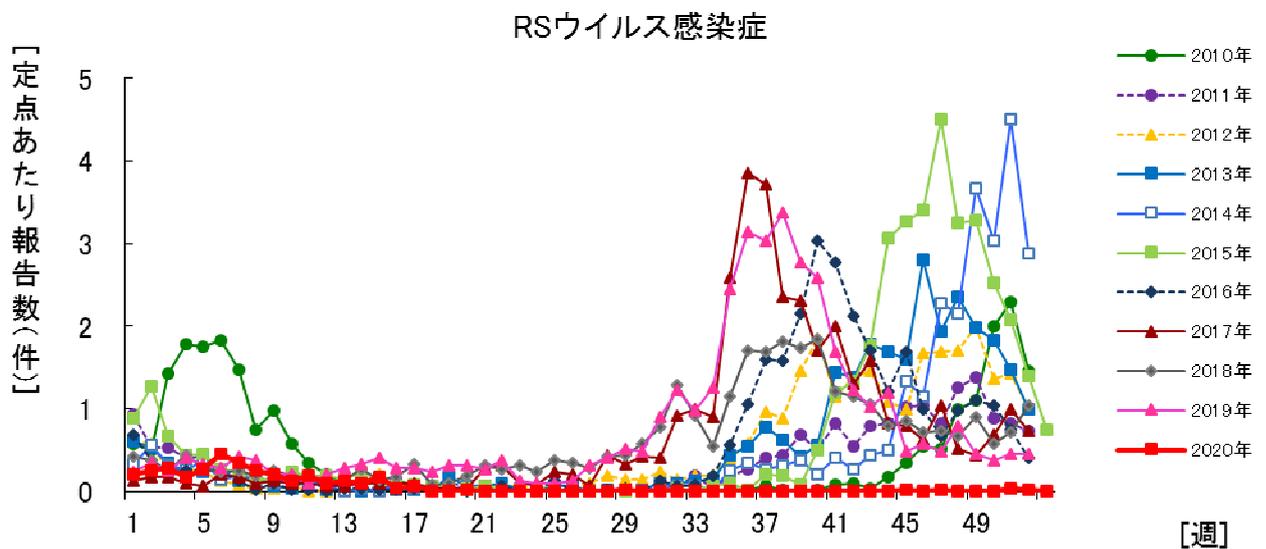
2. RSウイルス感染症

令和2(2020)年の総報告数は169件で、令和元(2019)年(1,899件)と比較すると0.09倍と大幅に減少しました。

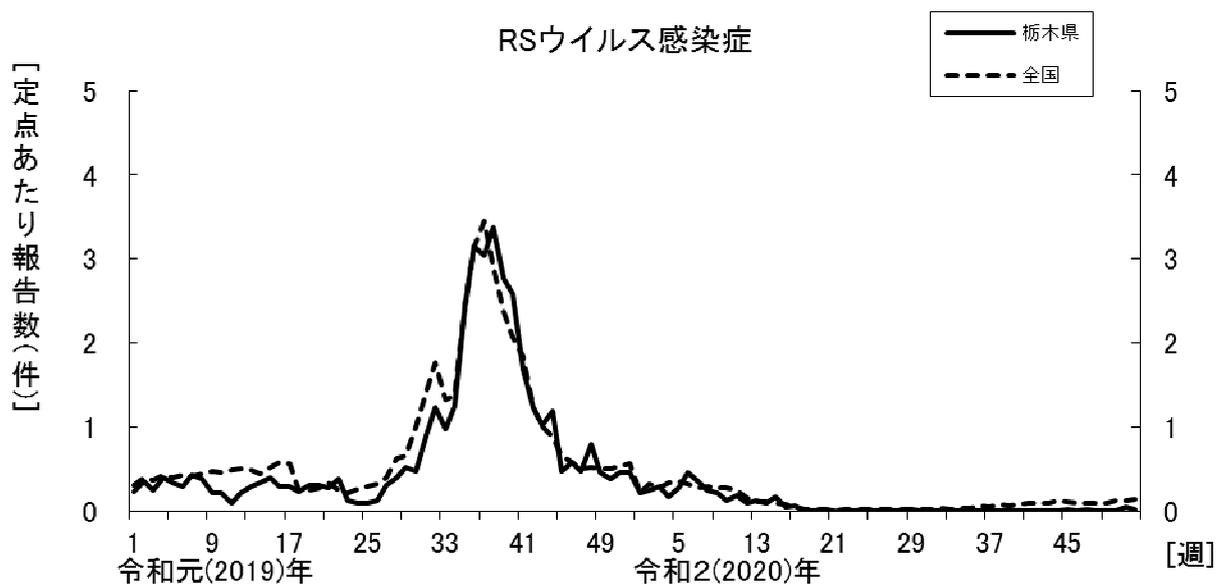
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、1歳以下が65.7%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県3.52、全国5.73で、全国と比較して0.61倍とかなり低い水準でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



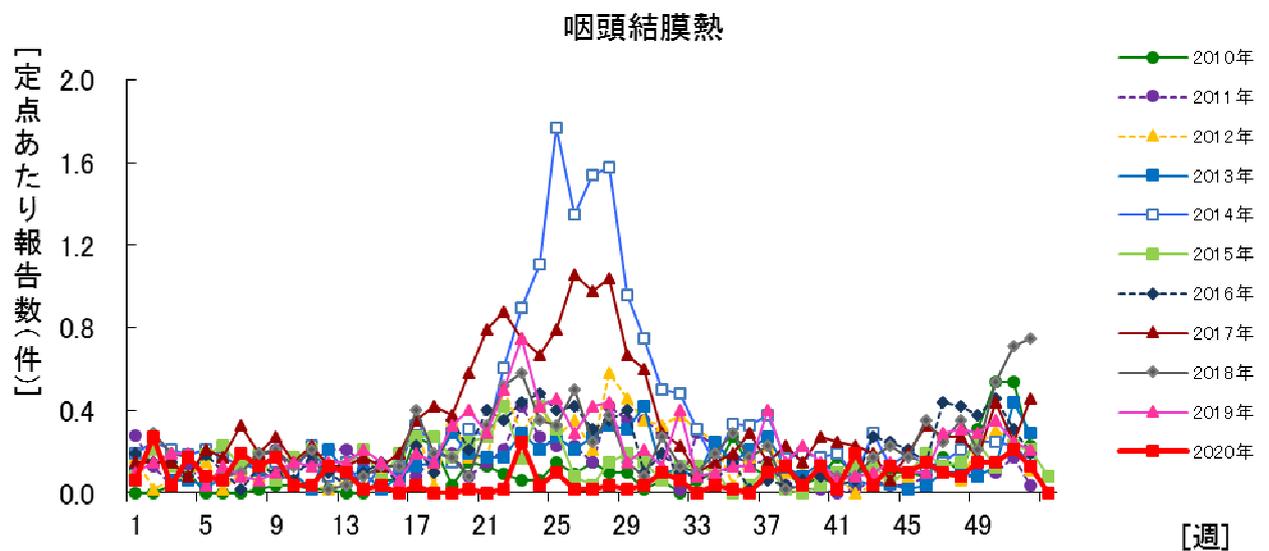
3. 咽頭結膜熱

令和2(2020)年の総報告数は203件で、令和元(2019)年(537件)と比較すると0.38倍と大幅に減少しました。

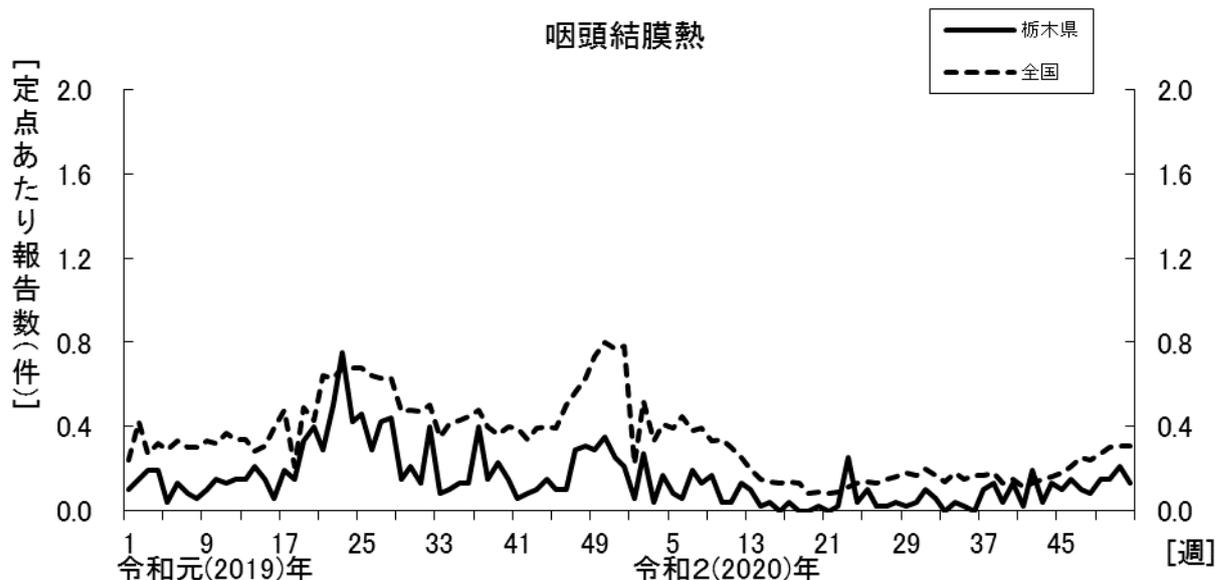
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、0～4歳が81.8%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県4.23、全国11.12で、全国と比較して0.38倍と大幅に低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



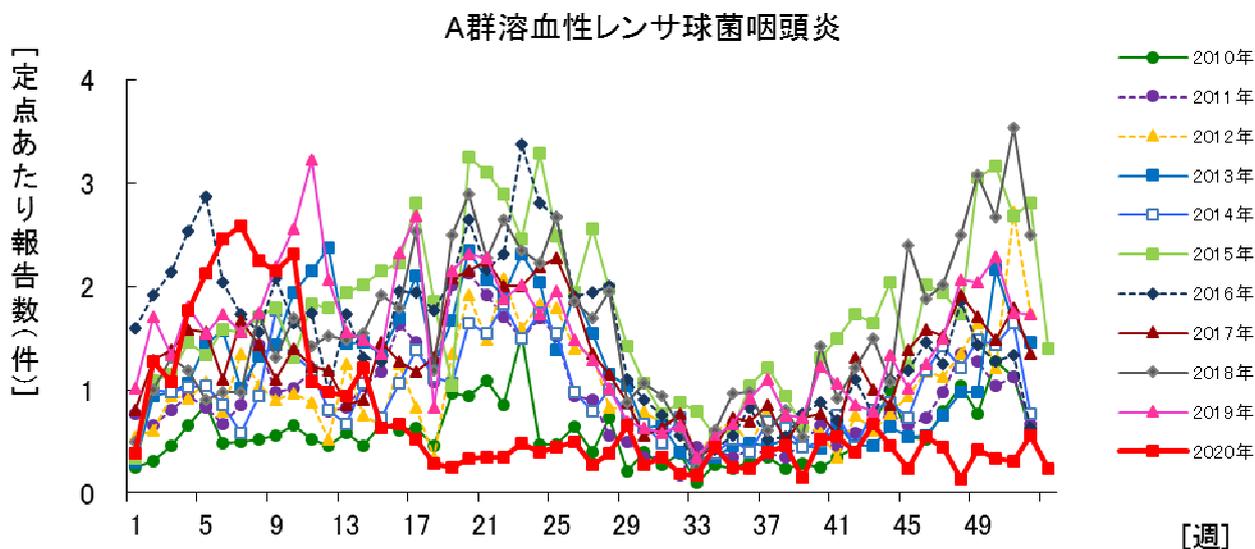
4. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

令和2(2020)年の総報告数は1,812件で、令和元(2019)年(3,718件)と比較すると0.49倍と大幅に減少しました。

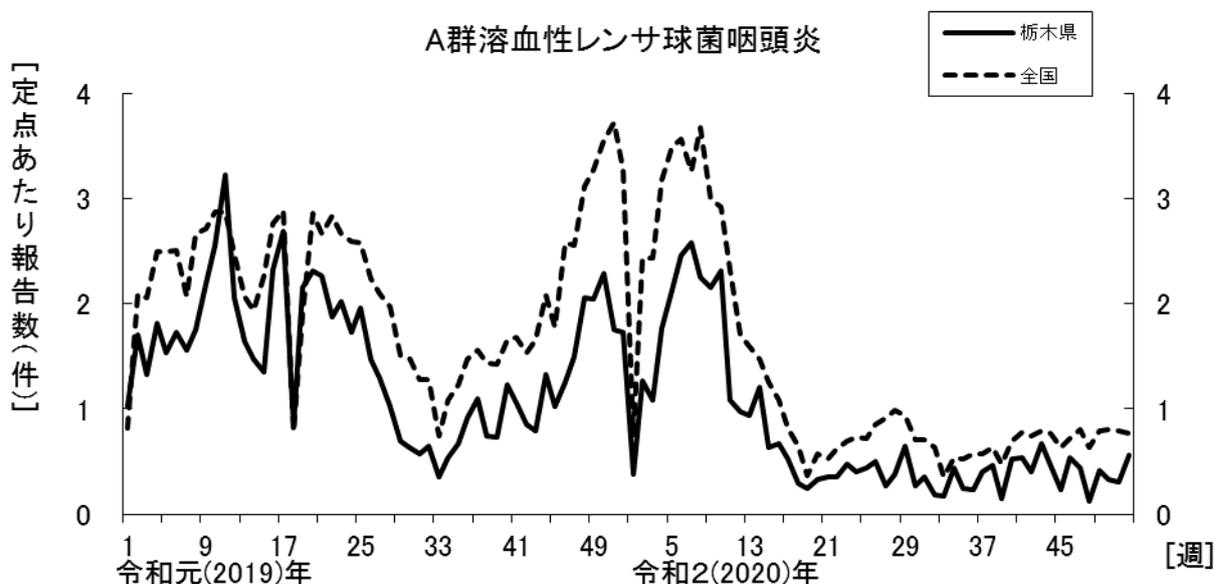
第7週(2/10~2/16)をピークとする報告数の増加が見られました。年齢階級別では、0~4歳が36.1%、5~9歳が46.0%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県37.75、全国63.37で、全国と比較して0.60倍とかなり低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



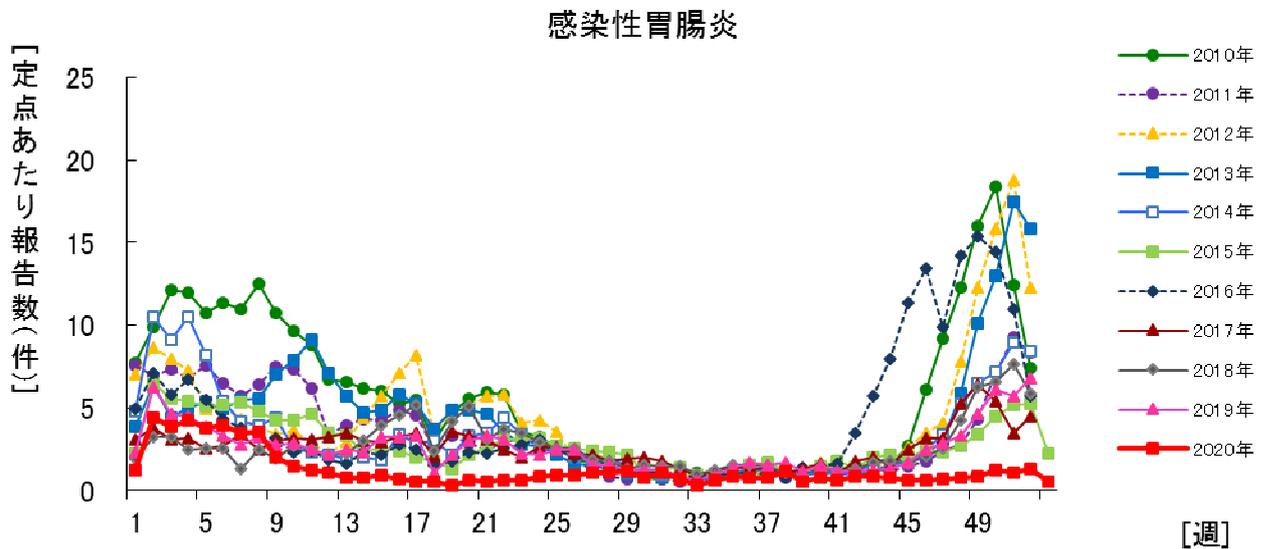
5. 感染性胃腸炎

令和2(2020)年の総報告数は3,200件で、令和元(2019)年(6,468件)と比較すると0.49倍と大幅に減少しました。

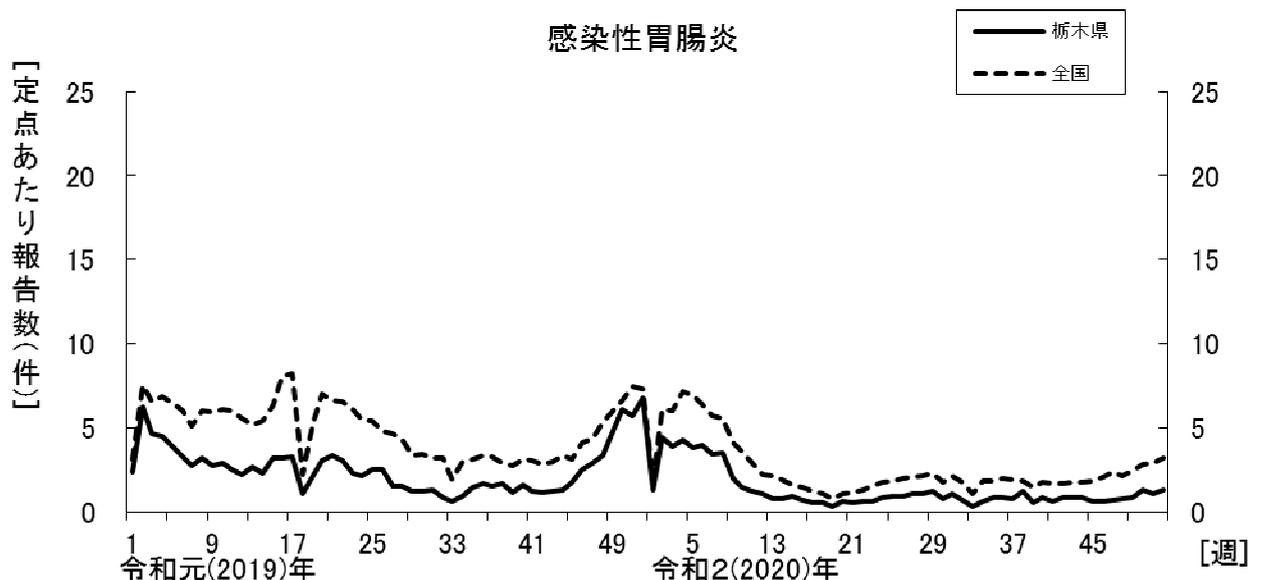
第2週(1/6～1/12)をピークとする報告数の増加が見られました。年齢階級別では、0～4歳が46.0%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県66.67、全国132.98で、全国と比較して0.50倍とかなり低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



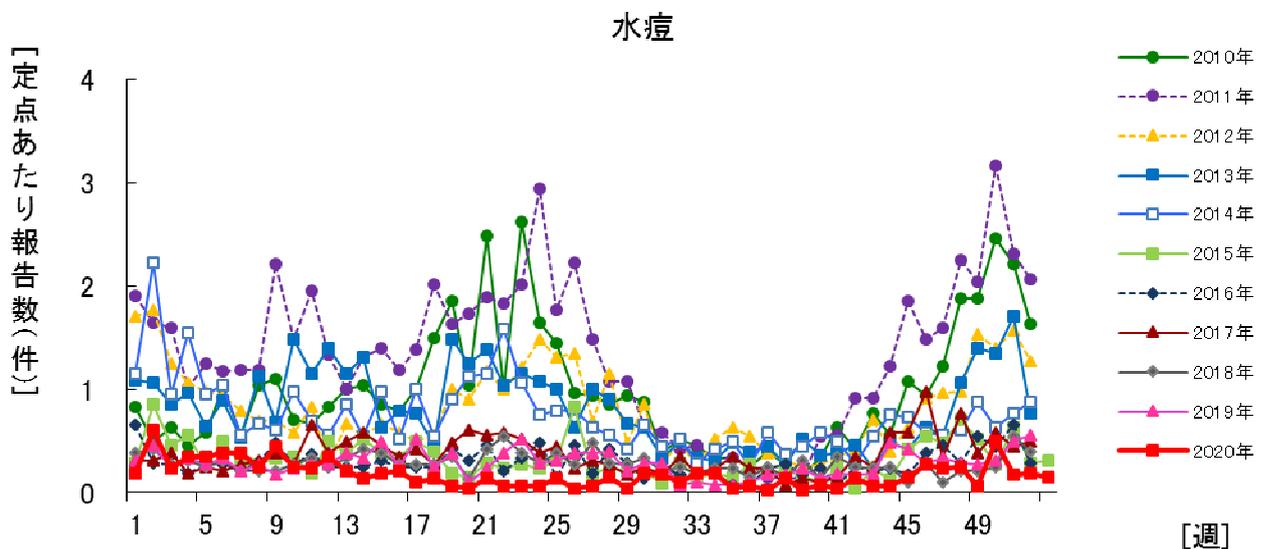
6. 水痘

令和2(2020)年の総報告数は443件で、令和元(2019)年(714件)と比較すると0.62倍とかなり減少しました。

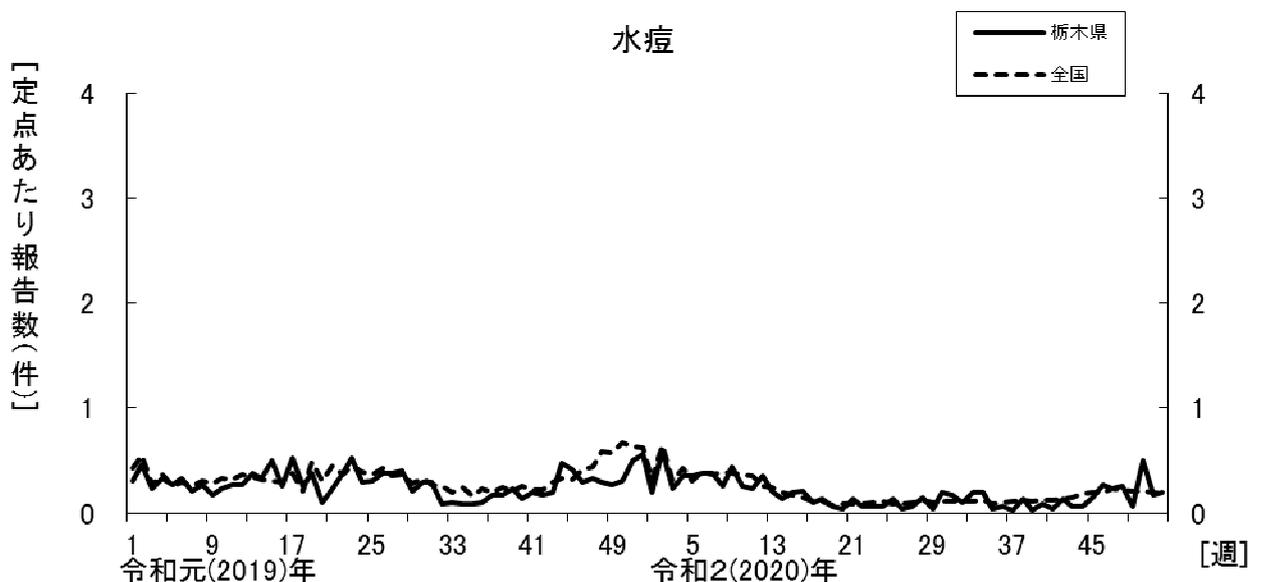
第2週(1/6～1/12)をピークとする報告数の増加が見られました。年齢階級別では、0～4歳が25.5%、5～9歳が58.0%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県9.23、全国10.05で、全国と比較して0.92倍とほぼ同様の水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



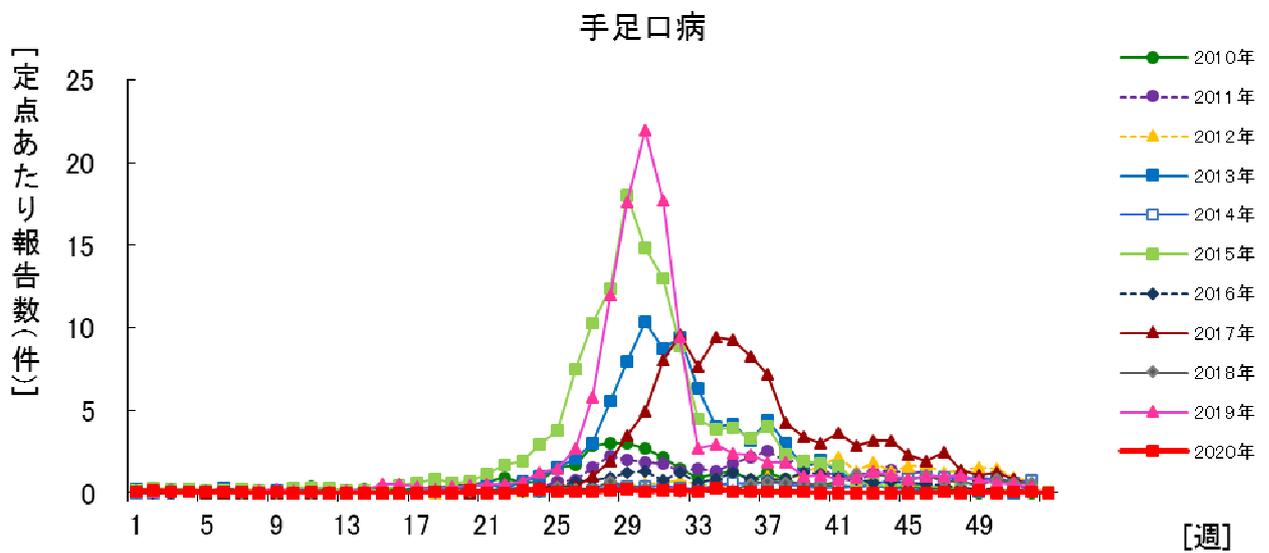
7. 手足口病

令和2(2020)年の総報告数は159件で、令和元(2019)年(5,875件)と比較すると0.03倍と大幅に減少しました。

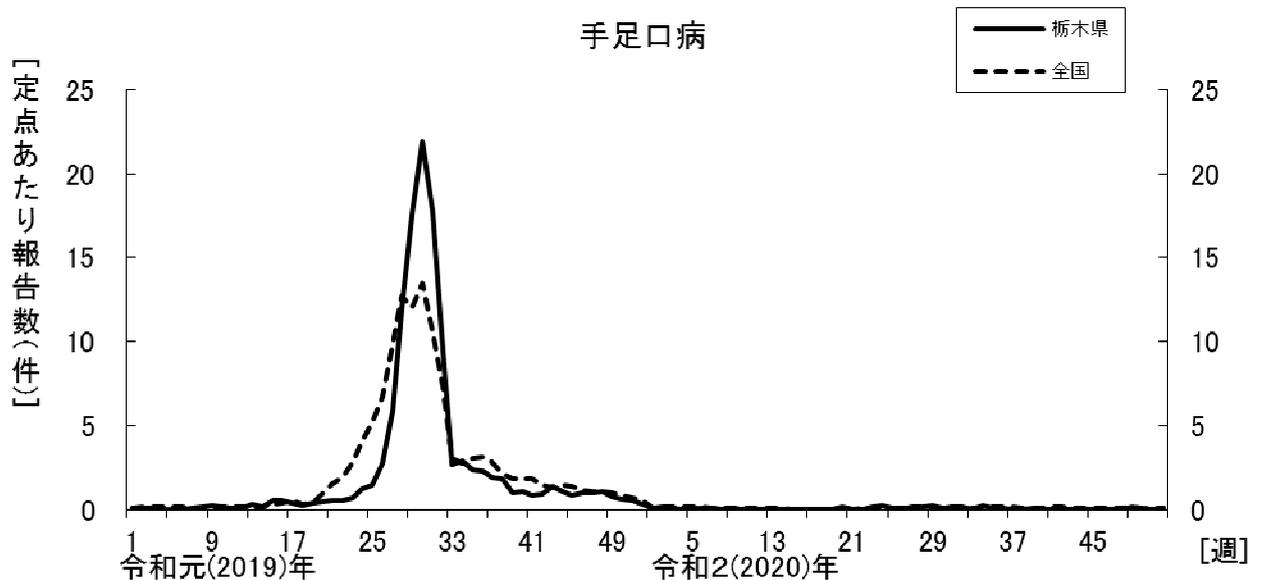
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、0～4歳が76.1%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県3.31、全国5.80で、全国と比較して0.57倍とかなり低い水準でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



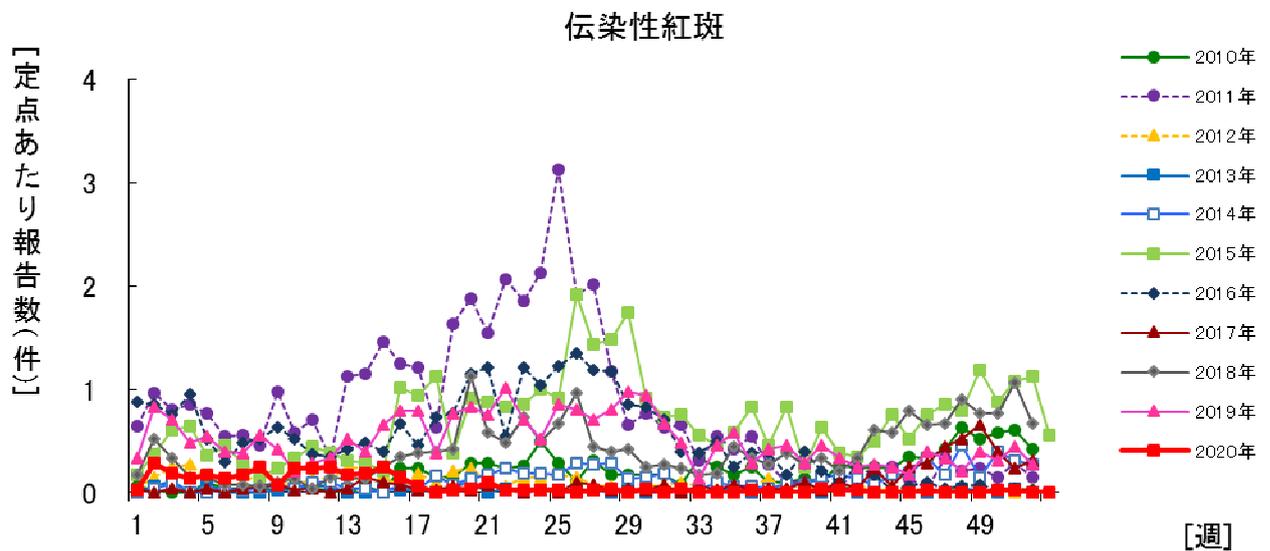
8. 伝染性紅斑

令和2(2020)年の総報告数は168件で、令和元(2019)年(1,276件)と比較すると0.13倍と大幅に減少しました。

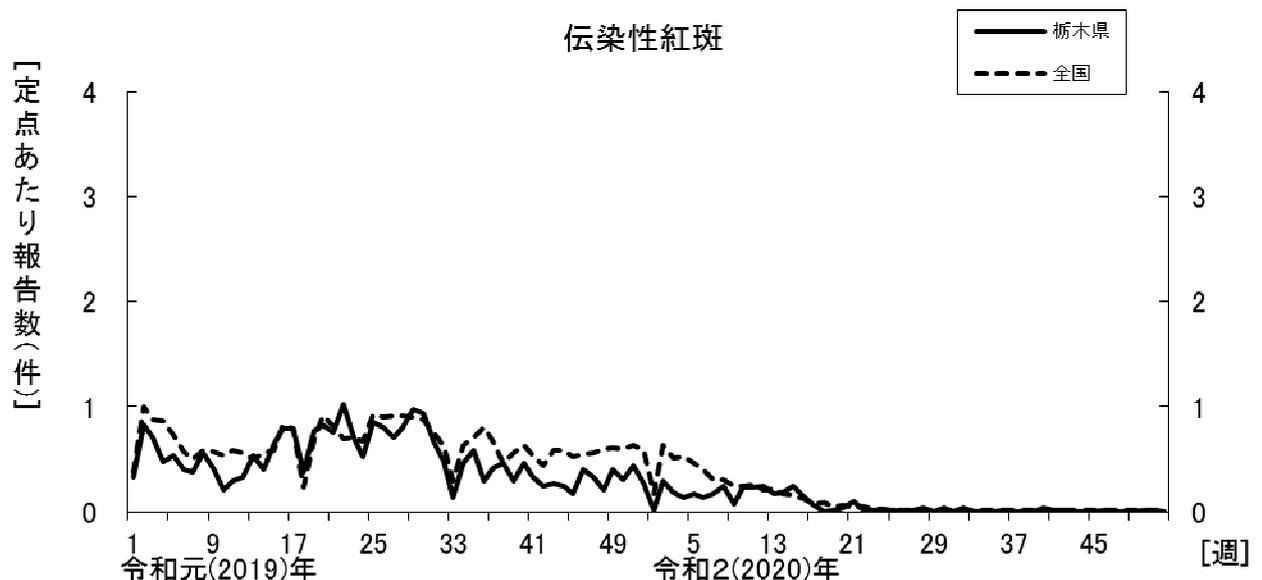
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、0～4歳が50.0%、5～9歳が42.9%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県3.50、全国5.80で、全国と比較して0.60倍とかなり低い水準でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



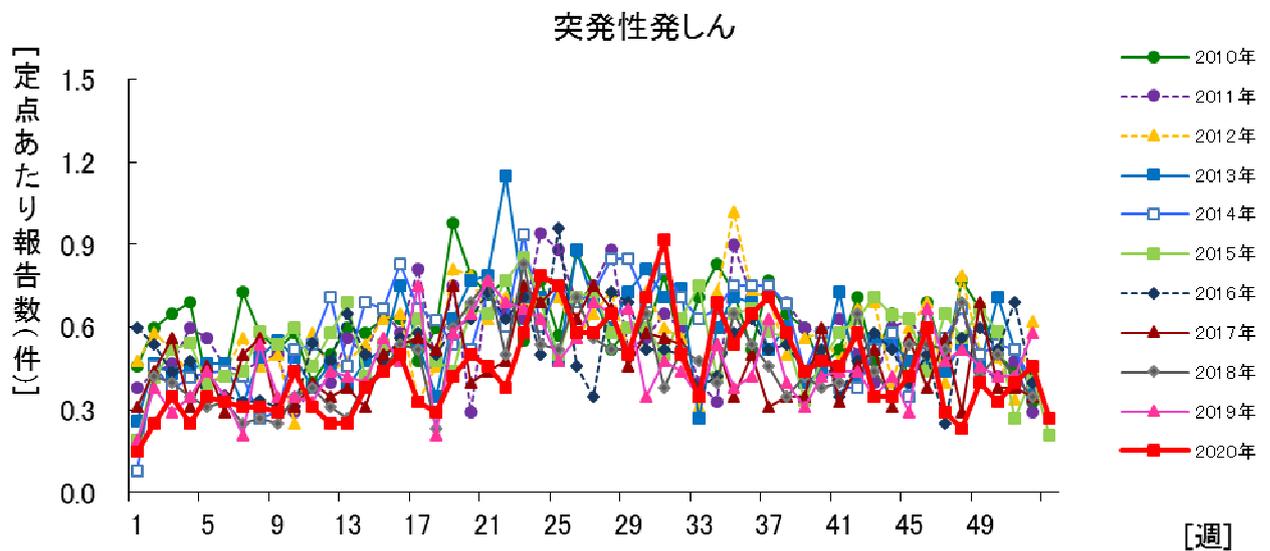
9. 突発性発しん

令和2(2020)年の総報告数は1,137件で、令和元(2019)年(1,164件)と比較すると0.98倍とほぼ同様でした。

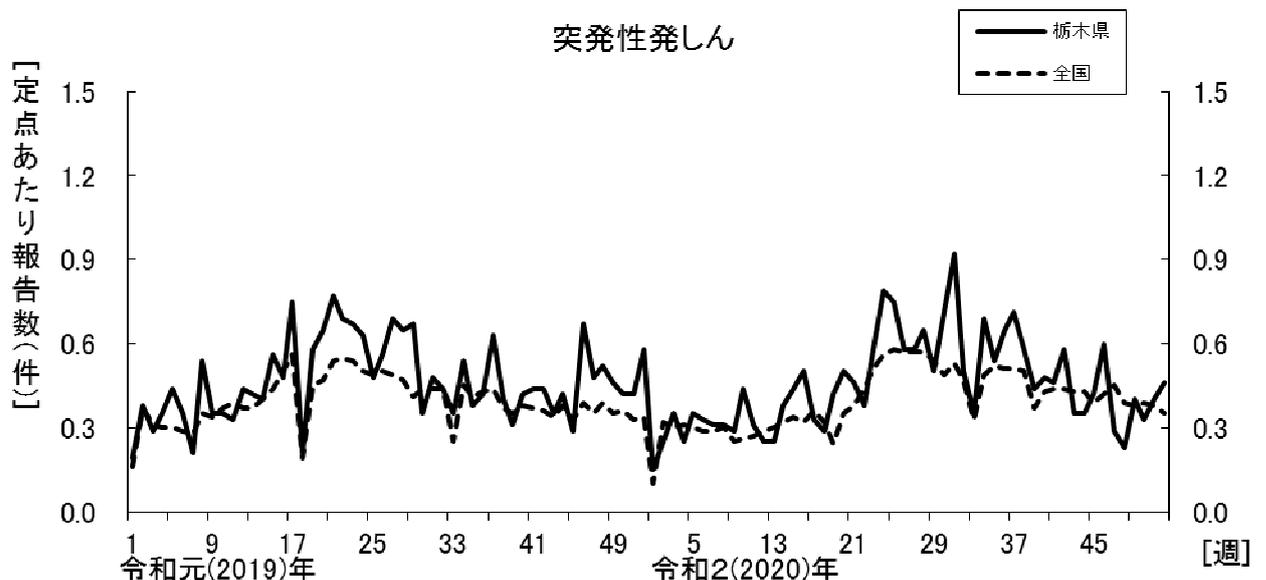
年間を通じて報告がありました。年齢階級別では、1歳以下が86.8%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県23.69、全国20.77で、全国と比較して1.14倍とやや高い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



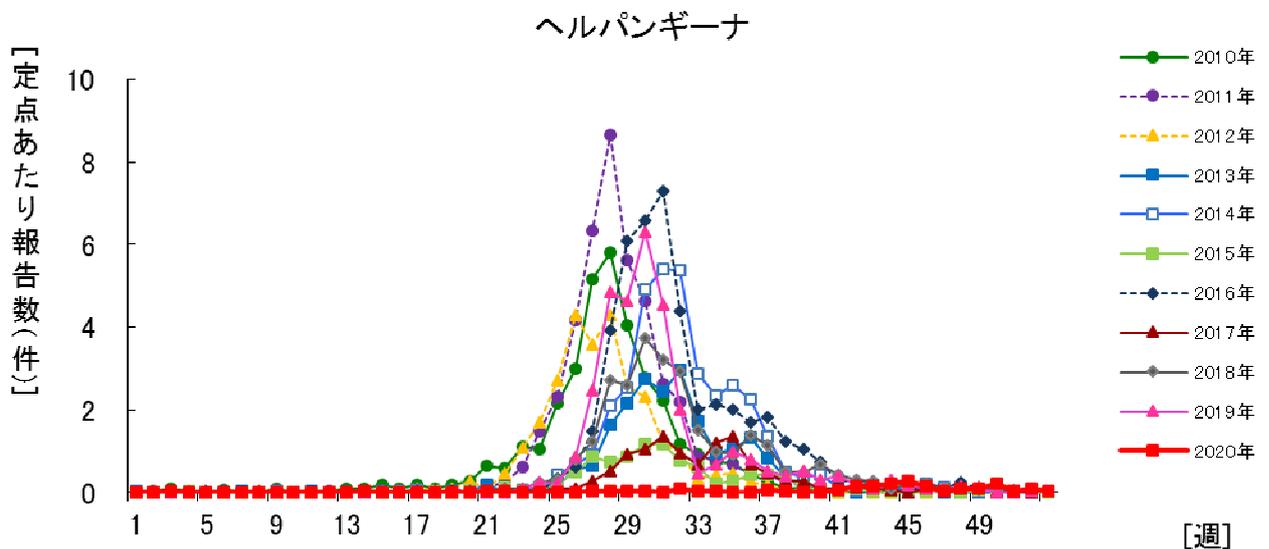
10. ヘルパンギーナ

令和2(2020)年の総報告数は100件で、令和元(2019)年(1,567件)と比較すると0.06倍と大幅に減少しました。

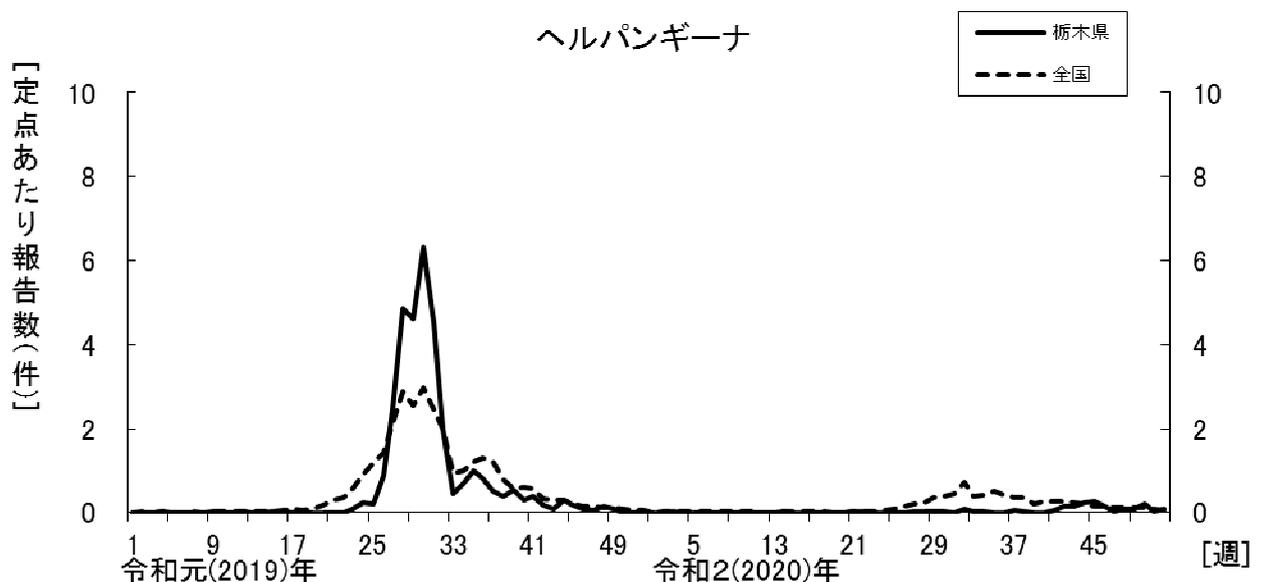
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、0～4歳が80.0%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県2.08、全国7.98で、全国と比較して0.26倍と大幅に低い水準でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



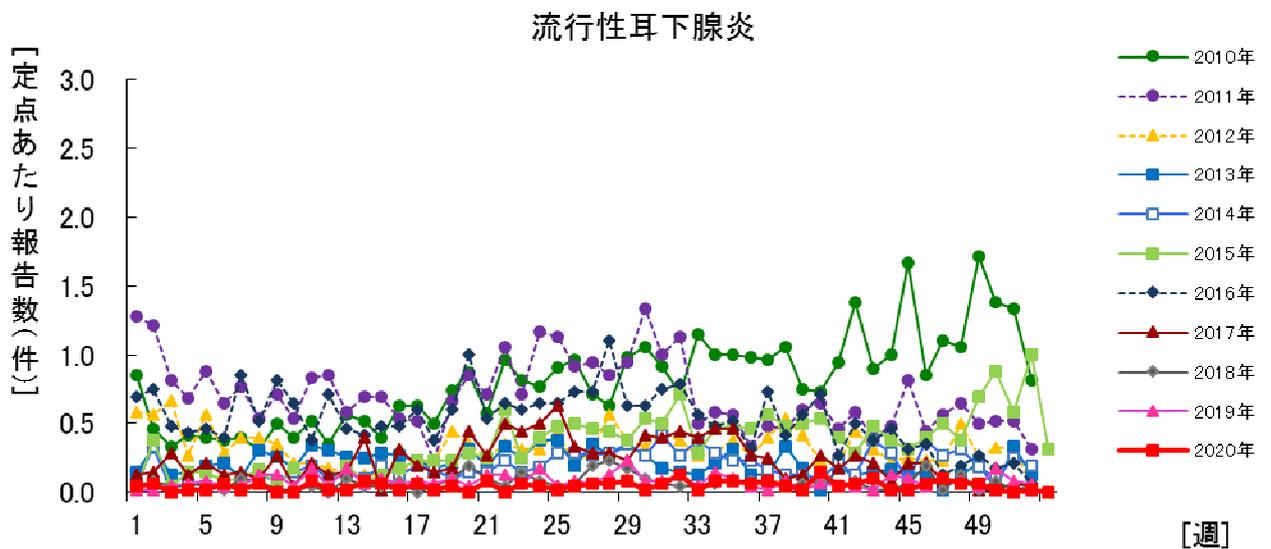
11. 流行性耳下腺炎

令和2(2020)年の総報告数は120件で、令和元(2019)年(205件)と比較すると0.59倍とかなり減少しました。

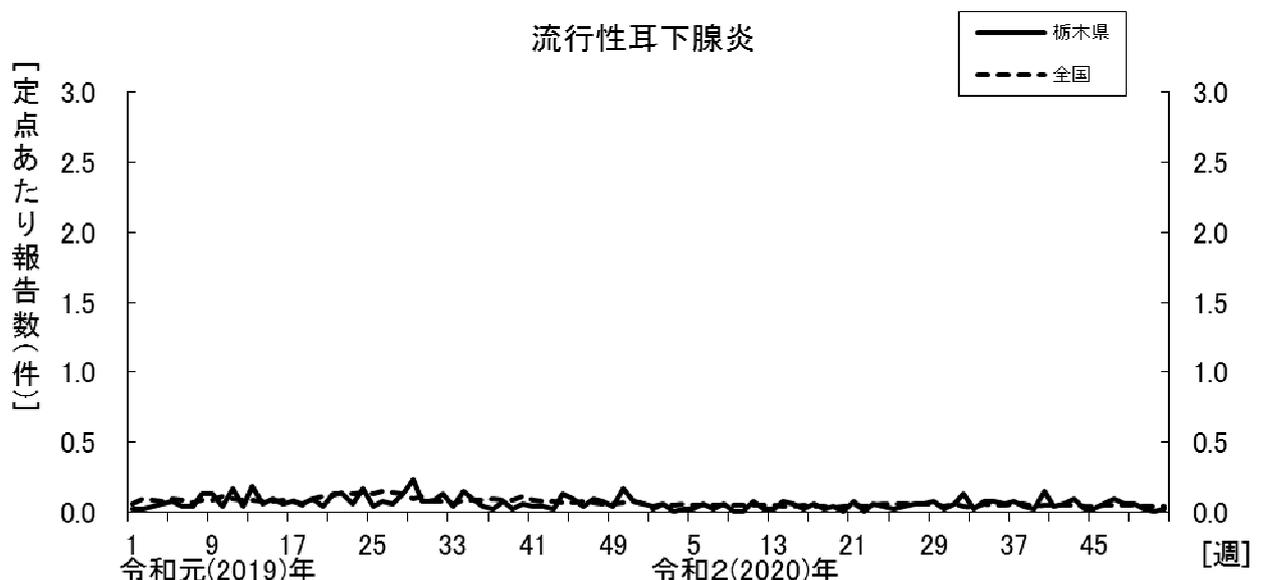
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、5～9歳が58.3%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県2.50、全国2.52で、全国と比較して0.97倍とほぼ同様の水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



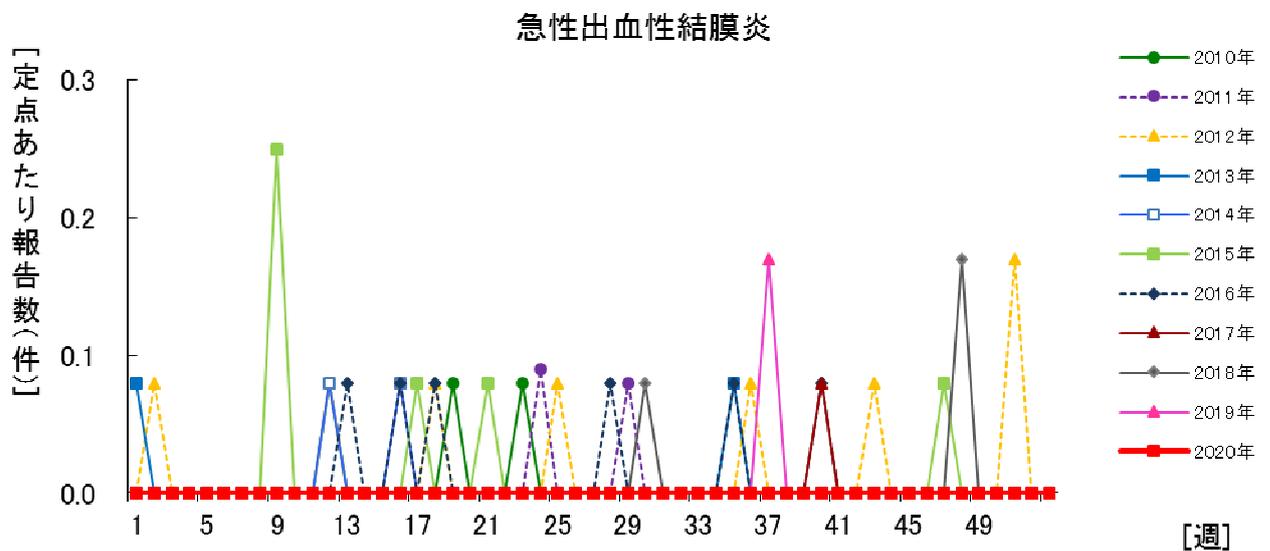
定点あたり報告数の動向(全国との比較)



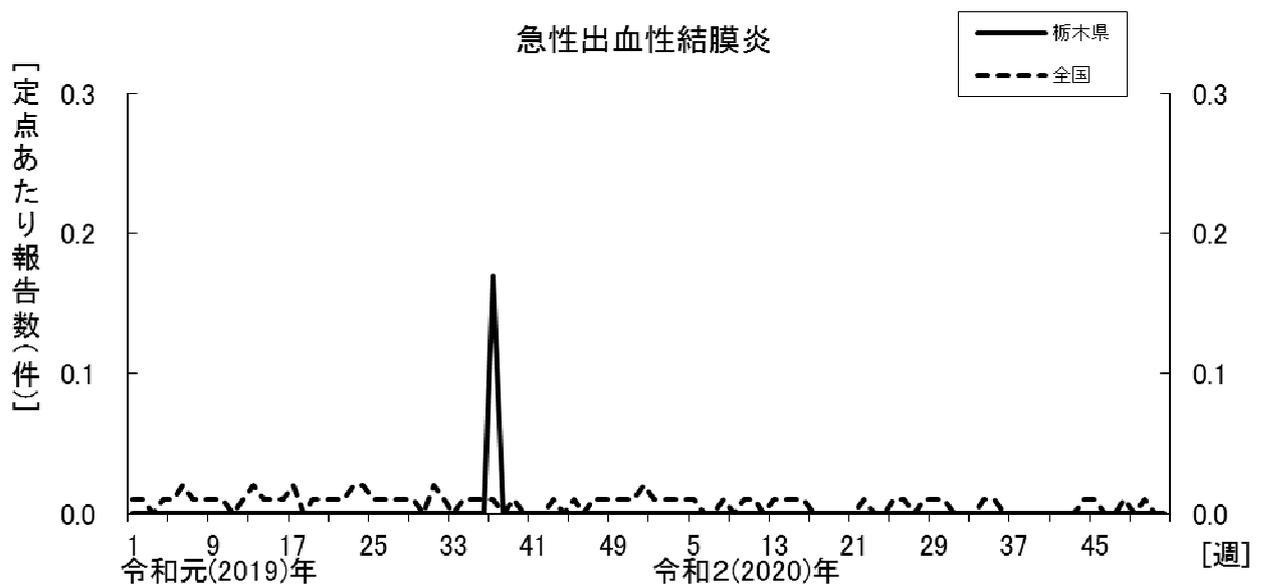
12. 急性出血性結膜炎

令和2(2020)年の総報告数は0件でした(令和元(2019)年は2件)。
 年間の定点あたり報告数の計は、栃木県0.00、全国0.24でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

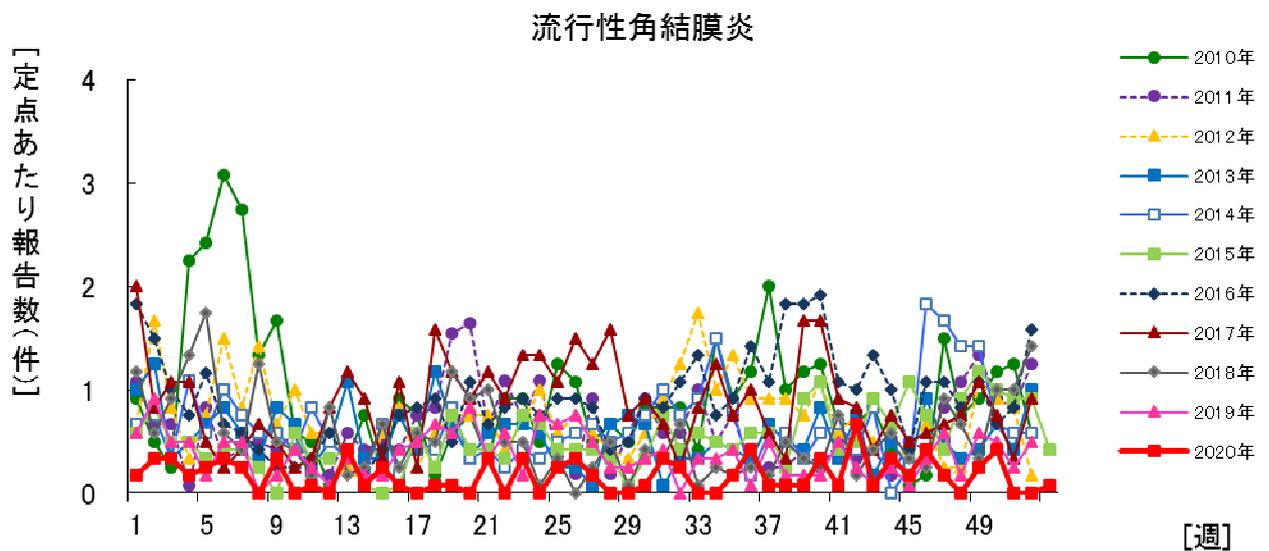


13. 流行性角結膜炎

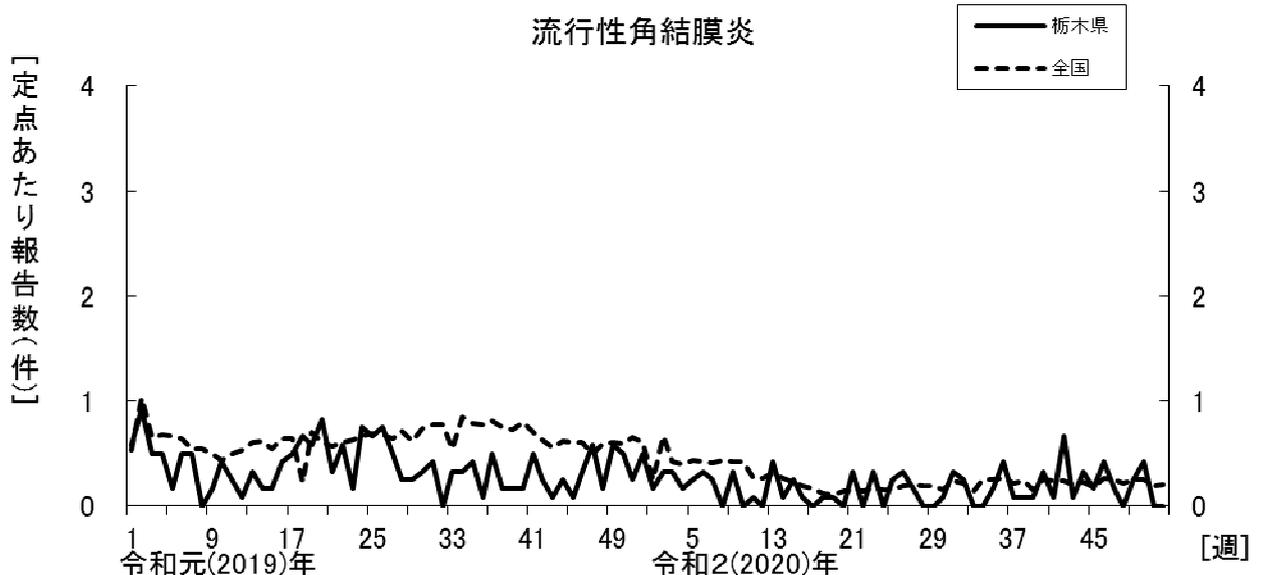
令和2(2020)年の総報告数は110件で、令和元(2019)年(234件)と比較すると0.47倍と大幅に減少しました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県9.17、全国13.08で、全国と比較して0.69倍とかなり低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

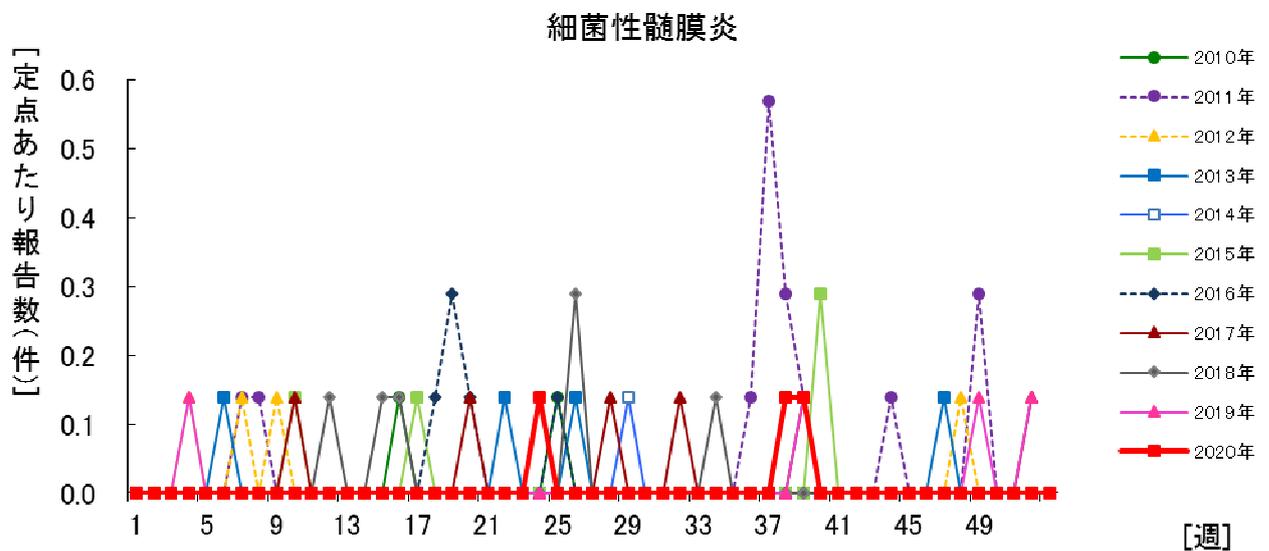


14. 細菌性髄膜炎

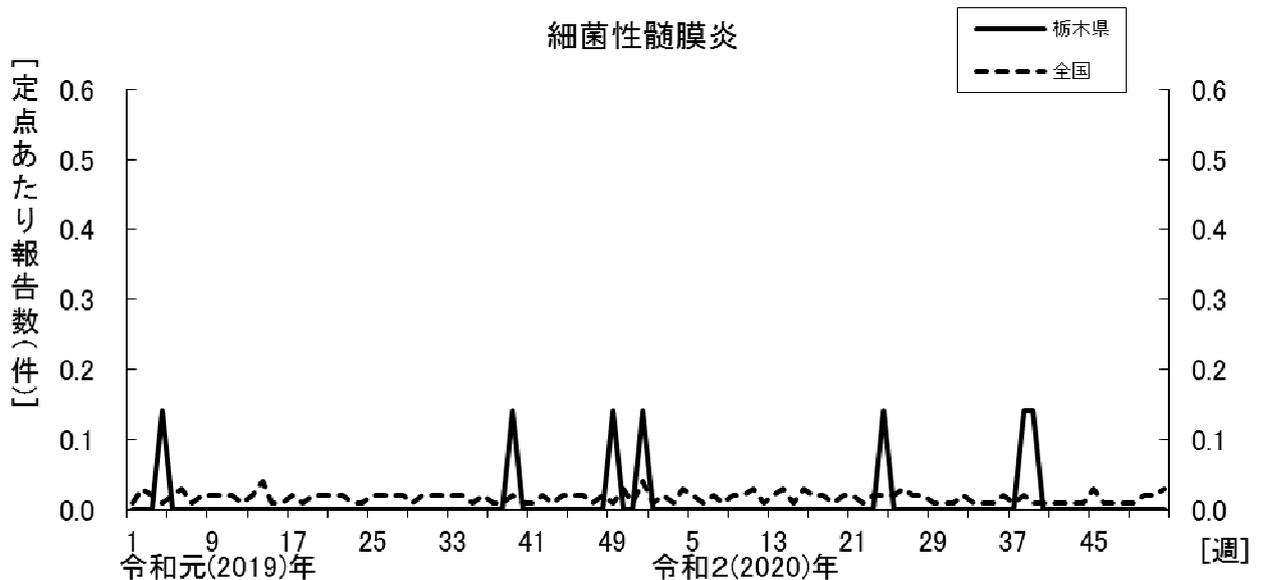
令和2(2020)年の総報告数は3件でした(令和元(2019)年は4件)。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県0.43、全国0.87で、全国と比較して0.57倍とかなり低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

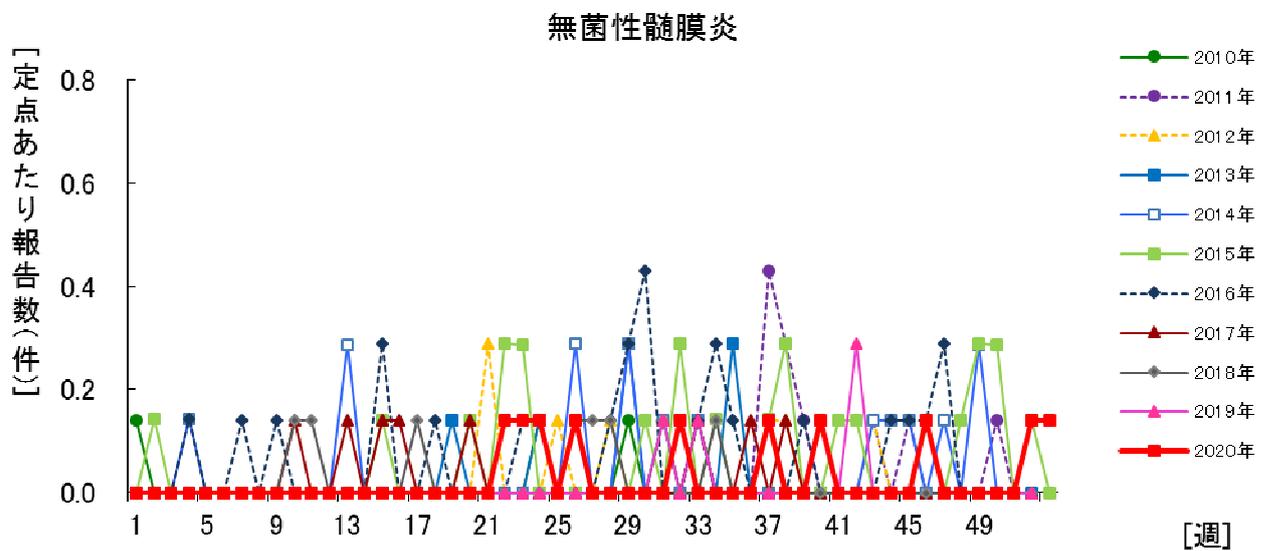


15. 無菌性髄膜炎

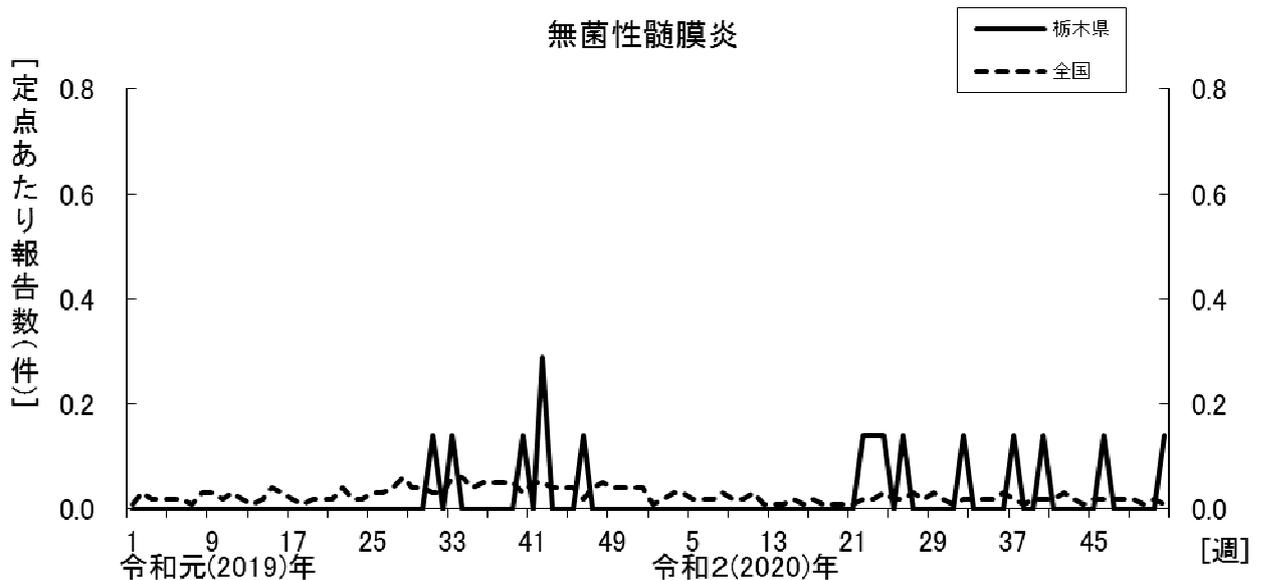
令和2(2020)年の総報告数は10件でした(令和元(2019)年は6件)。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県1.43、全国0.99で、全国と比較して1.27倍とかなり高い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



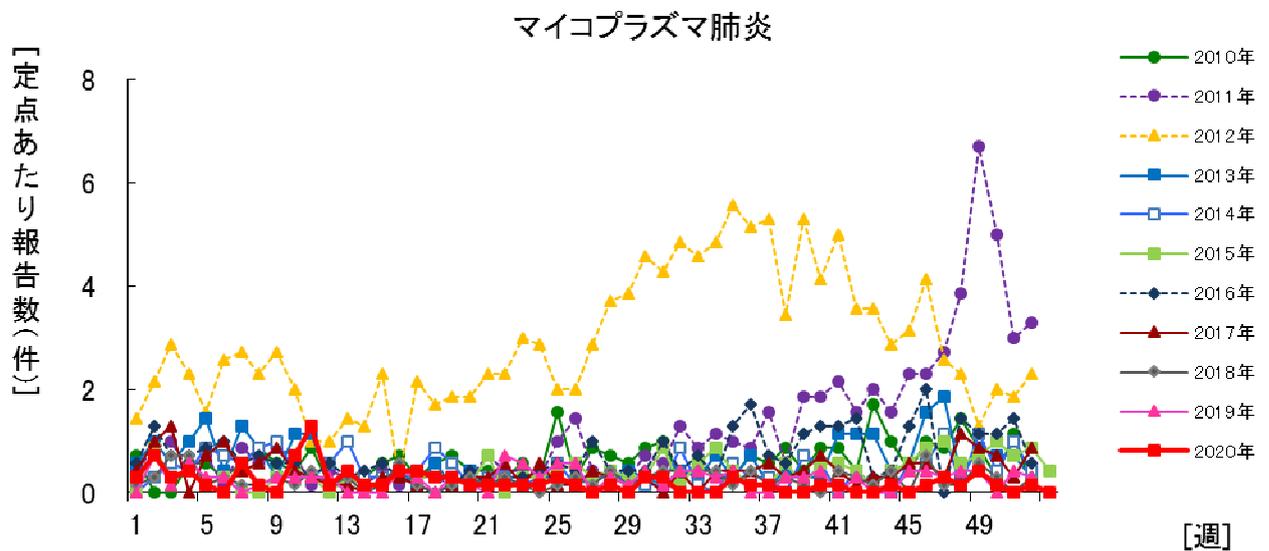
16. マイコプラズマ肺炎

令和2(2020)年の総報告数は77件で、令和元(2019)年(96件)と比較すると0.80倍とやや減少しました。

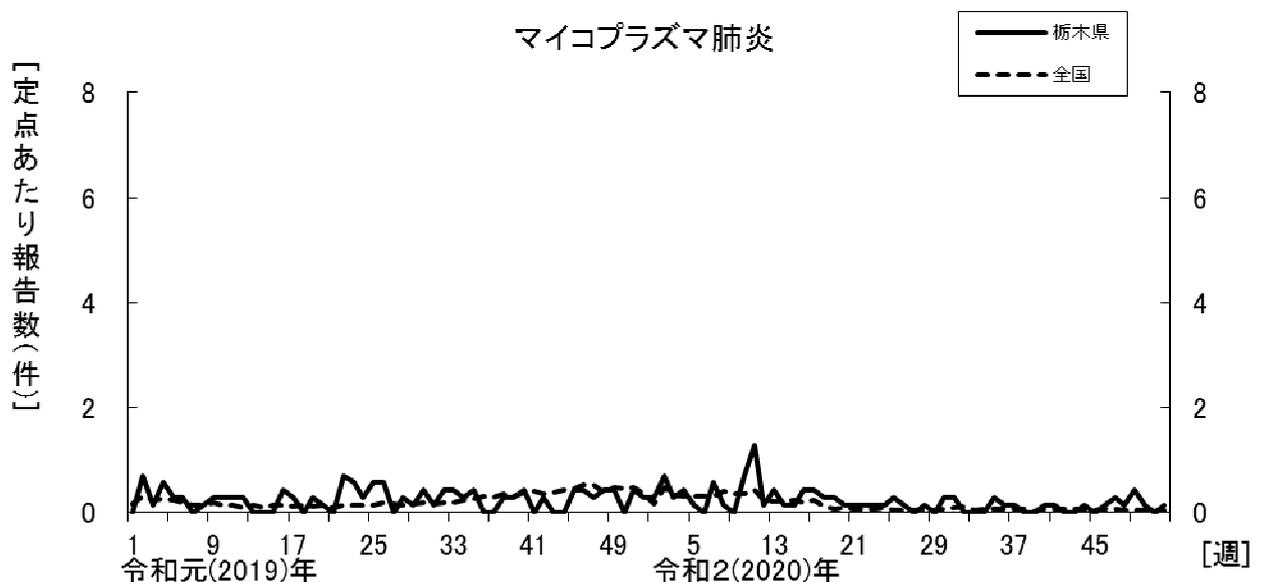
年齢階級別では、14歳以下が28.6%を占めました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県11.00、全国7.35で、全国と比較して1.49倍とかなり高い水準でした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）

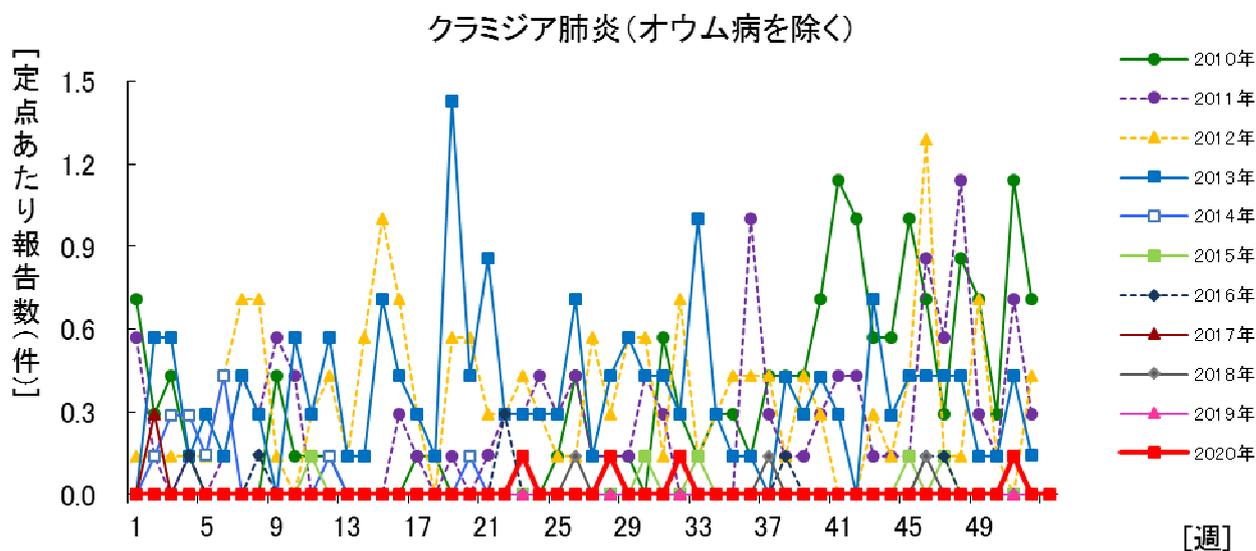


17. クラミジア肺炎（オウム病を除く）

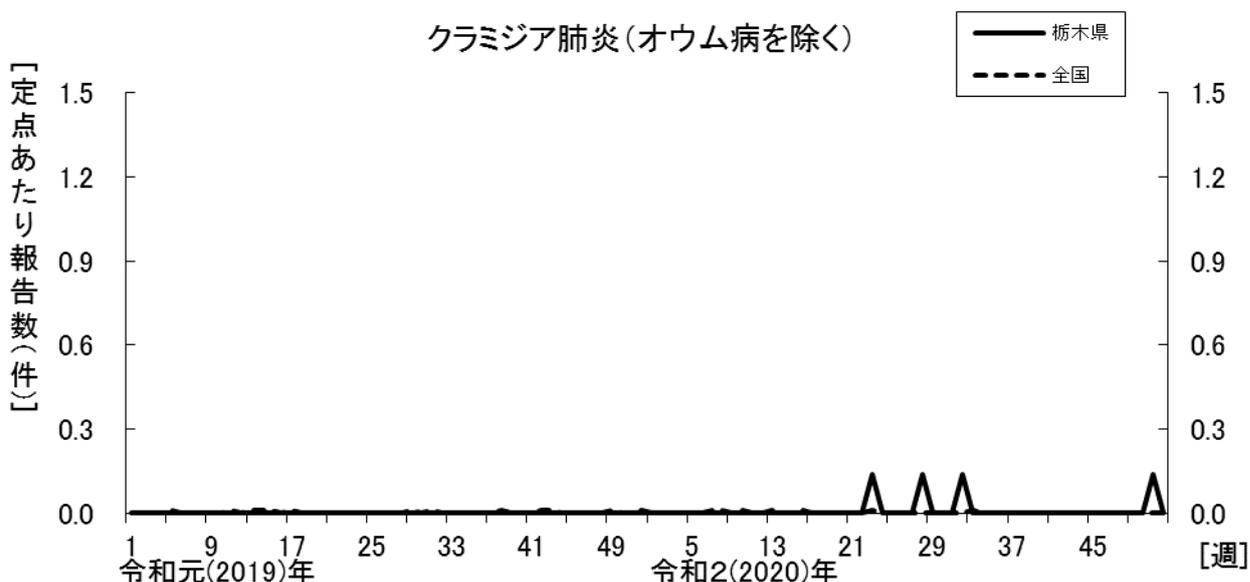
令和2（2020）年の総報告数は4件でした（令和元（2019）年は0件）。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県0.57、全国0.07で、大きな流行は見られませんでした。

定点あたり報告数の動向（過去10年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）

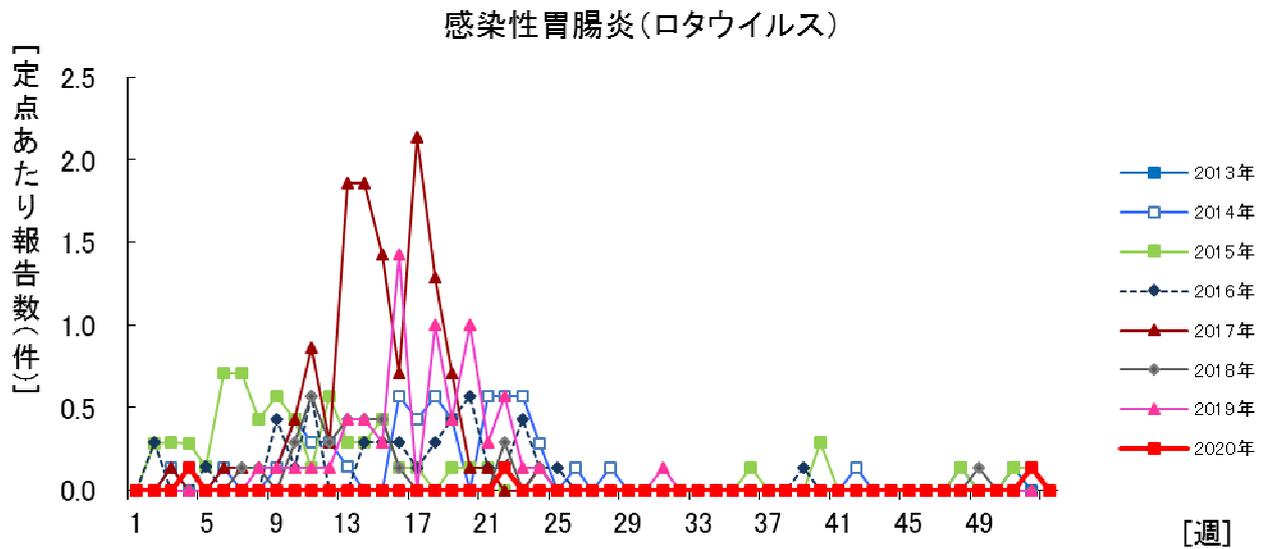


18. 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

令和2（2020）年の総報告数は3件で、令和元（2019）年（49件）と比較すると0.06倍と大幅に減少しました。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県0.43、全国0.45で、全国と比較して0.93倍とほぼ同様の水準でした。

定点あたり報告数の動向（過去7年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



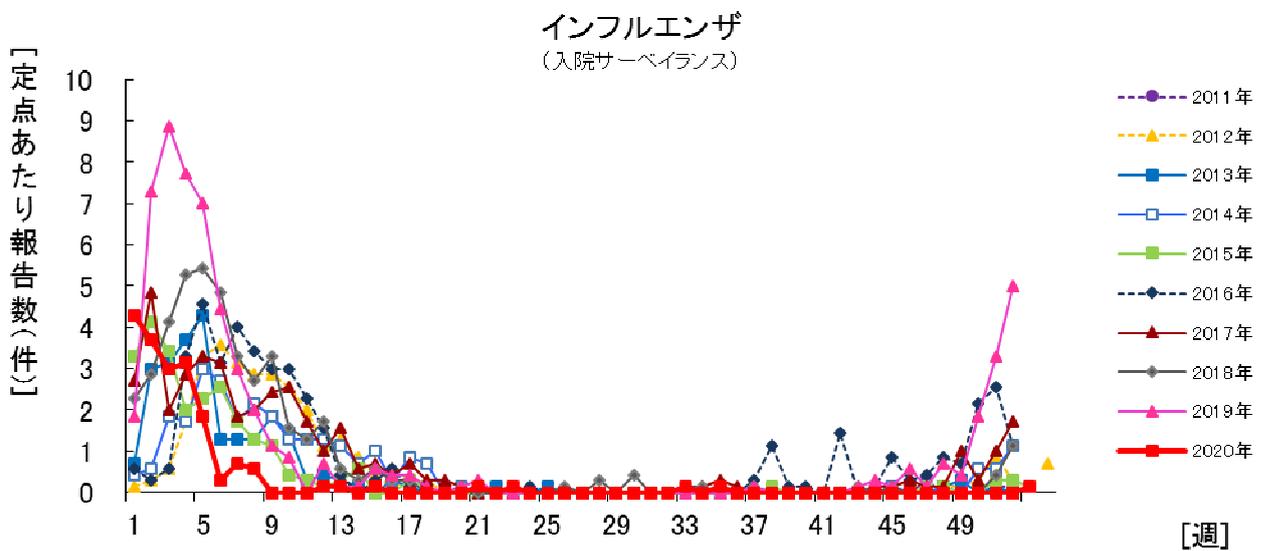
19. インフルエンザ（入院サーベイランス）

令和2（2020）年の総報告数は131件で、令和元（2019）年（419件）と比較すると0.31倍と大幅に減少しました。

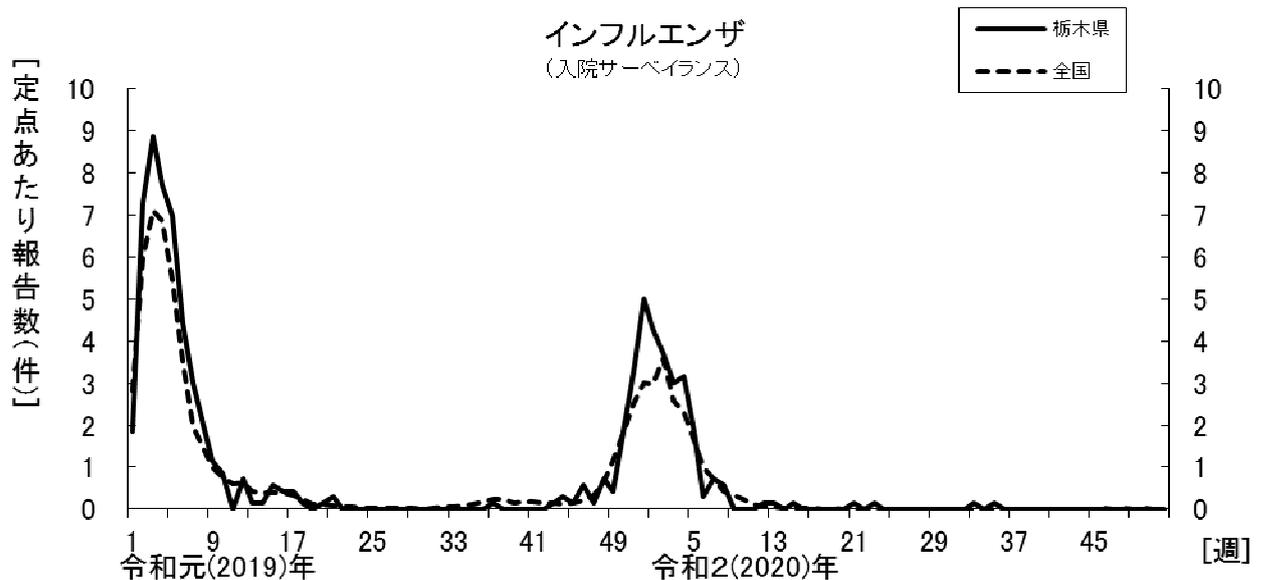
第1週（12/30～1/5）をピークとする報告数の増加が見られました。年齢階級別では、0～9歳51件、10歳代7件、20歳代4件、30歳代2件、40歳代3件、50歳代8件、60歳代7件、70歳代23件、80歳代17件、90歳代9件でした。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県 18.71、全国 16.18 で、全国と比較して1.16倍とやや高い水準でした。

定点あたり報告数の動向（過去9年間との比較）



定点あたり報告数の動向（全国との比較）



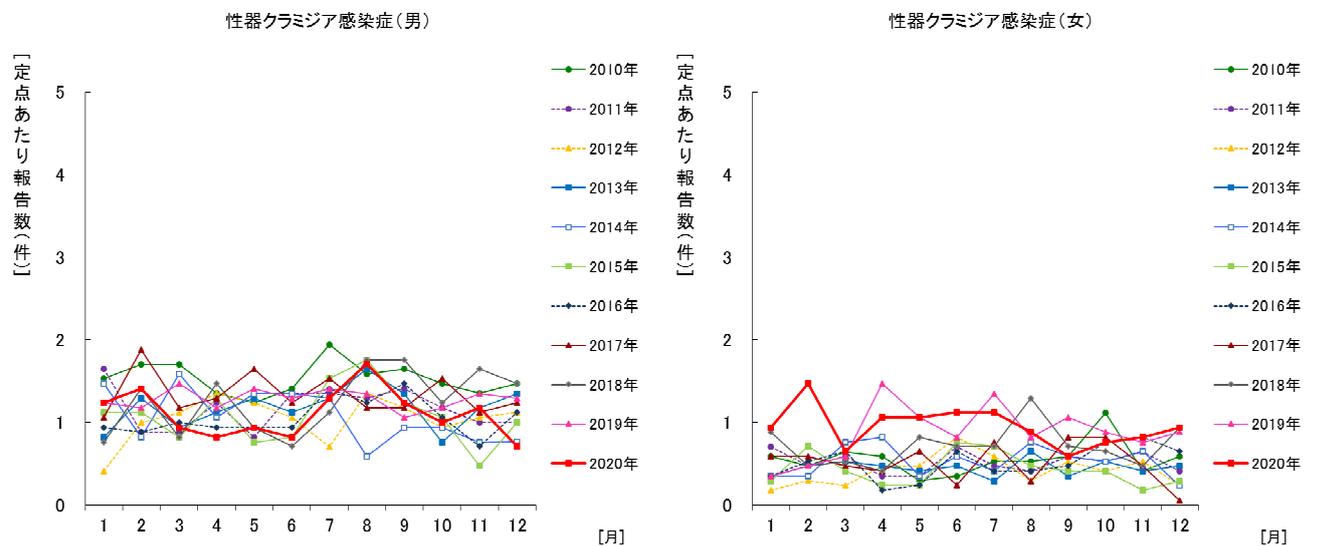
23. 性器クラミジア感染症

令和2(2020)年の総報告数は420件(男226件、女194件)でした。令和元(2019)年の441件(男262件、女179件)と比較すると、男性はやや減少し、女性はほぼ同様でした。性別毎の報告数全体に占める性別年齢階級別では、20歳代は男性が42.0%、女性が66.0%、30歳代は男性が30.1%、女性が13.4%でした。

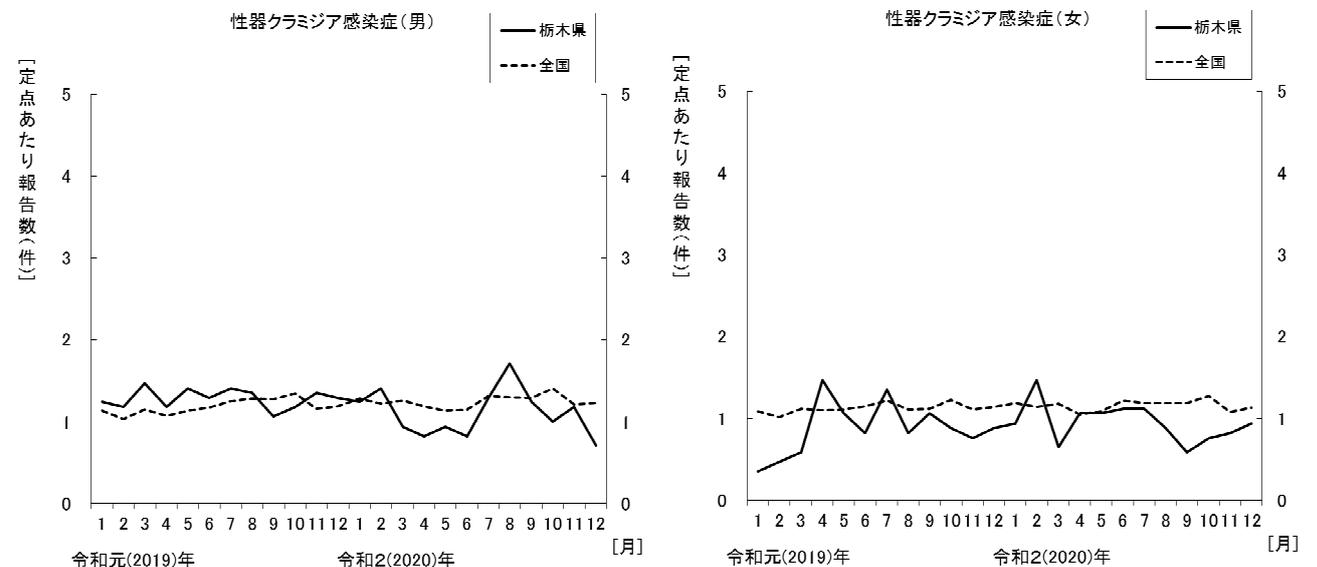
年間の定点あたり報告数の計は、栃木県24.71、全国28.92で、全国と比較して0.85倍とやや低い水準でした。

男性は栃木県13.29、全国14.98で、全国と比較し0.89倍とやや低い水準、女性は栃木県11.41、全国13.92で、全国と比較し0.82倍とやや低い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



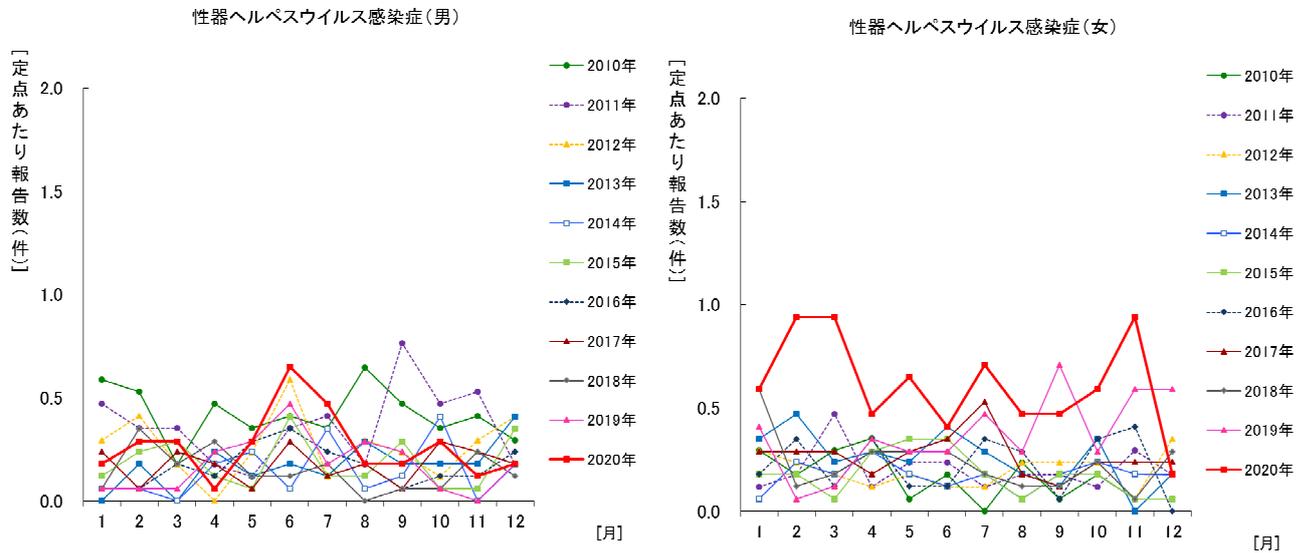
24. 性器ヘルペスウイルス感染症

令和2(2020)年の総報告数は179件(男54件、女125件)でした。令和元(2019)年の112件(男36件、女76件)と比較すると、男性、女性ともに大幅に増加しました。性別毎の報告数全体に占める性別年齢階級別では、20歳代は男性が7.4%、女性が34.4%、30歳代は男性が16.7%、女性が24.0%でした。

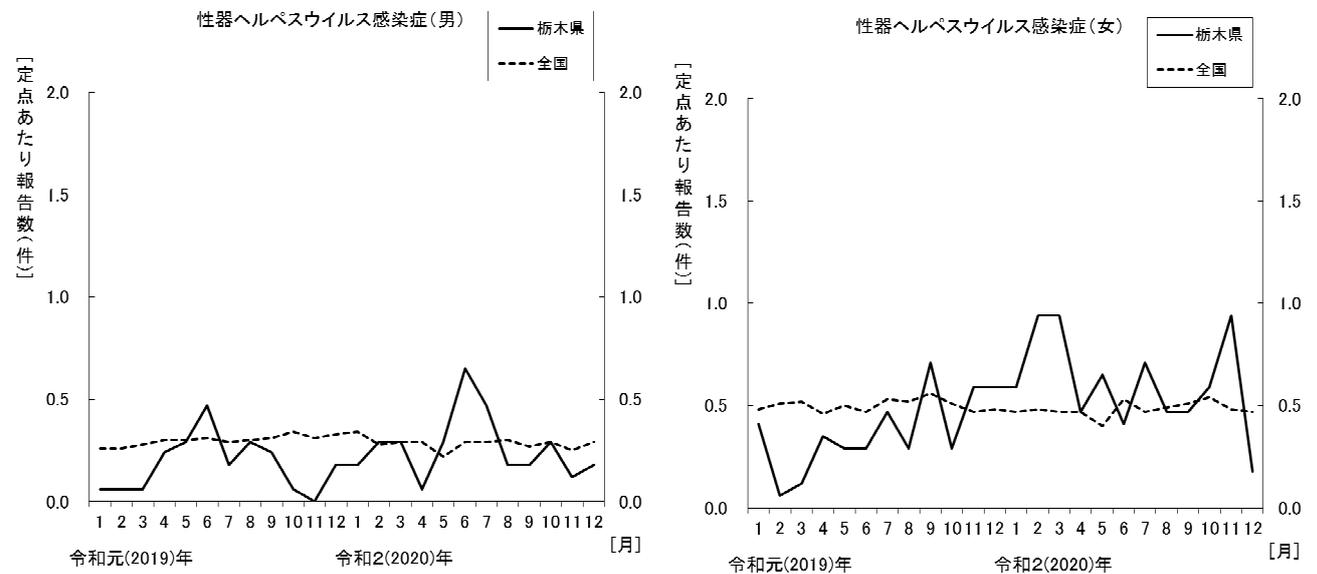
年間の定点あたり報告数の計は、栃木県10.53、全国9.16で、全国と比較して1.15倍とやや高い水準でした。

男性は栃木県3.18、全国3.40で、全国と比較し0.93倍とほぼ同様の水準、女性は栃木県7.35、全国5.78で、全国と比較し1.27倍とかなり高い水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



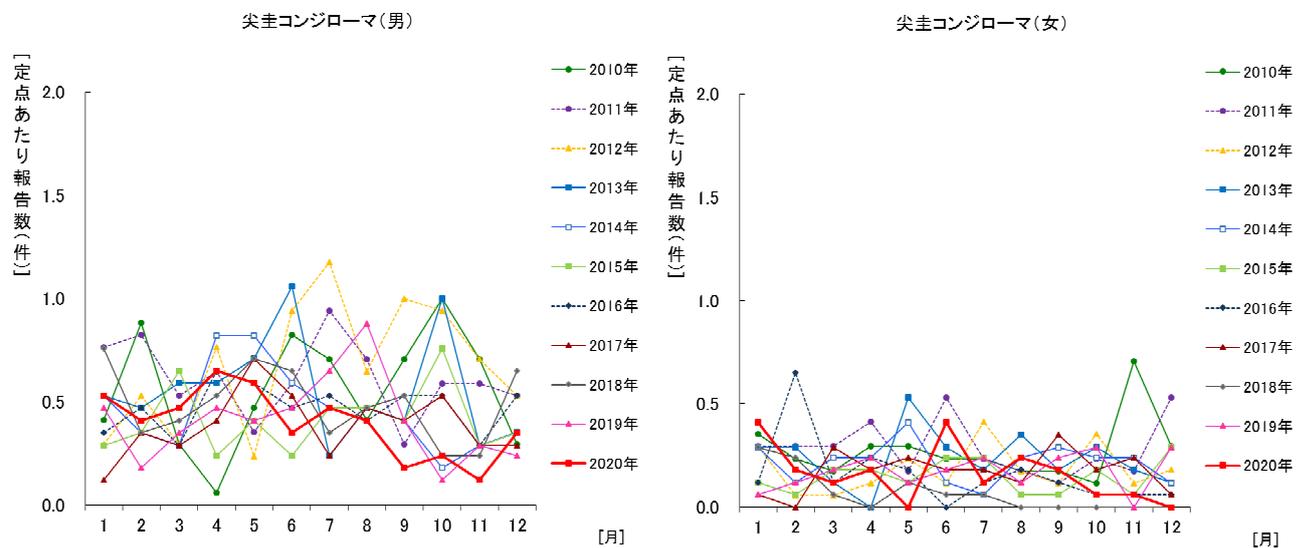
25. 尖圭コンジローマ

令和2(2020)年の総報告数は114件(男81件、女33件)でした。令和元(2019)年の119件(男84件、女35件)と比較すると、男性、女性ともにほぼ同様でした。性別毎の報告数全体に占める性別年齢階級別では、20歳代は男性が30.9%、女性が63.6%、30歳代は男性が24.7%、女性が15.2%でした。

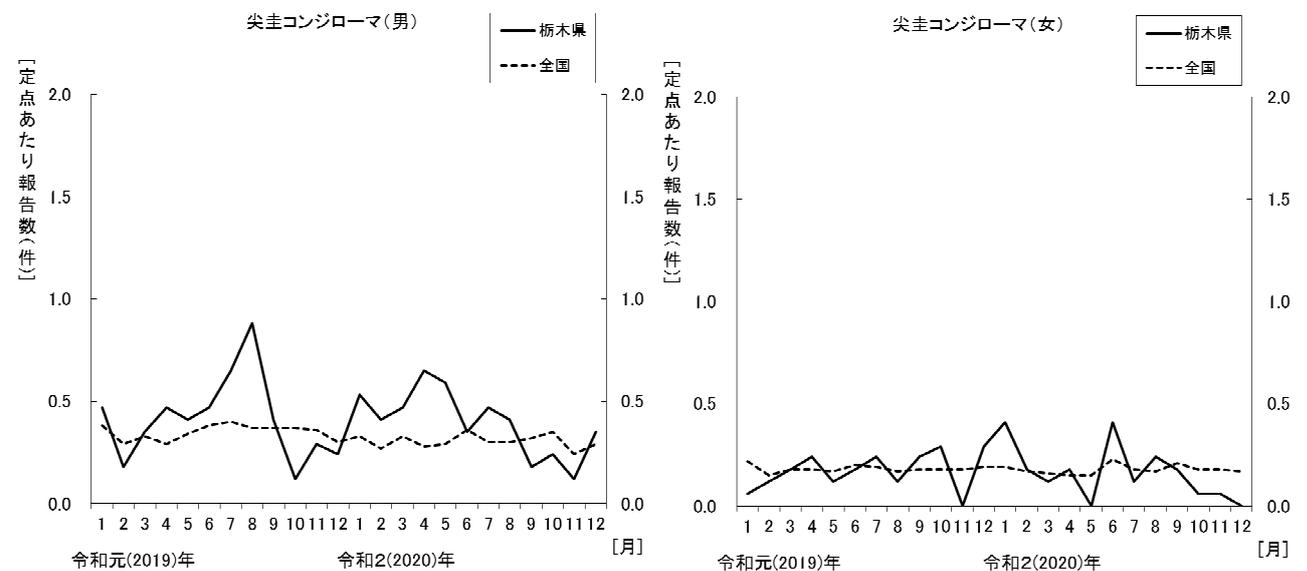
年間の定点あたり報告数の計は、栃木県6.71、全国5.79で、全国と比較して1.16倍とやや高い水準でした。

男性は栃木県4.76、全国3.66で、全国と比較し1.30倍とかなり高い水準、女性は栃木県1.94、全国2.14で、全国と比較し0.91倍とほぼ同様の水準でした。

定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)

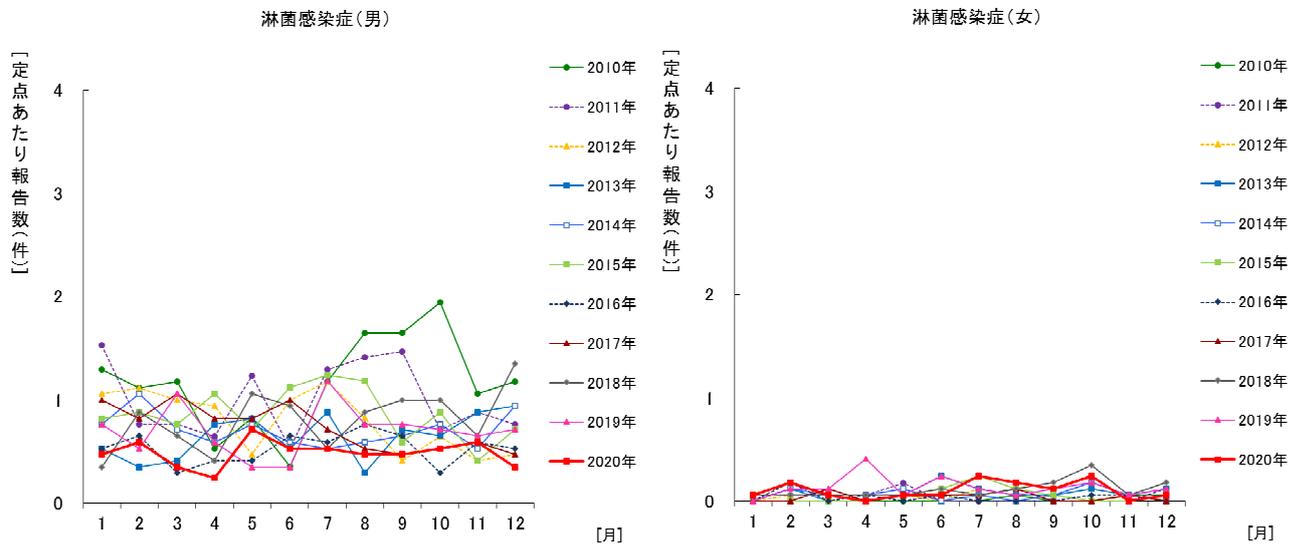


26. 淋菌感染症

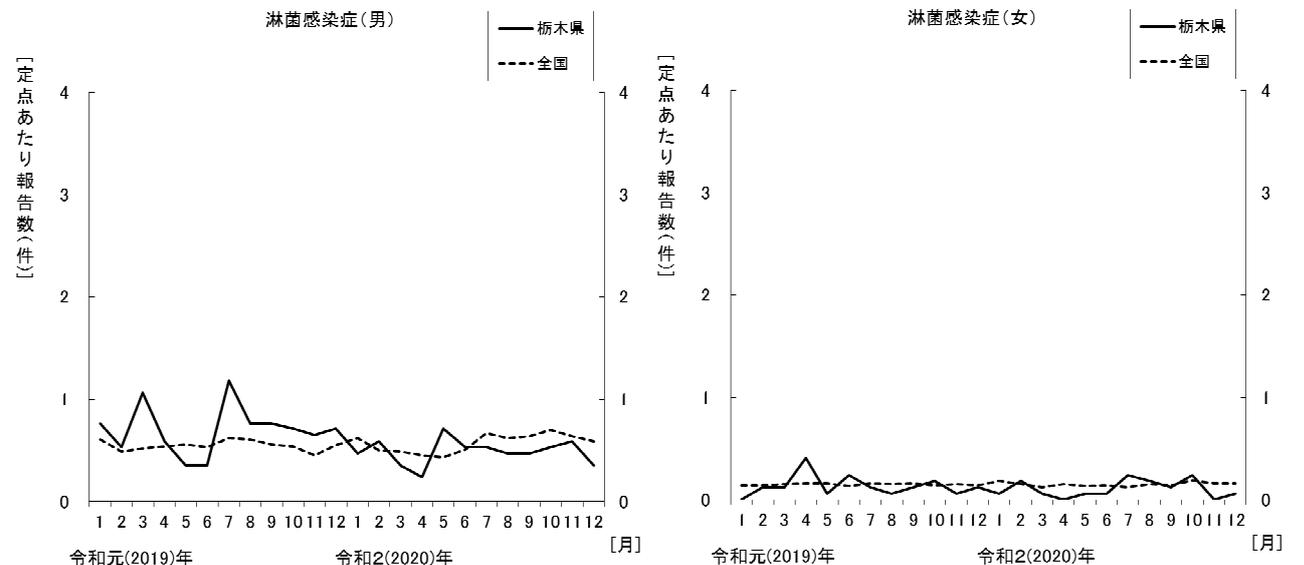
令和2(2020)年の総報告数は120件(男99件、女21件)と、報告の82.5%を男性が占めました。令和元(2019)年の170件(男143件、女27件)と比較すると、男性はかなり減少、女性はやや減少しました。性別毎の報告数全体に占める性別年齢階級別では、20歳代は男性が37.4%、女性が76.2%、30歳代は男性が30.3%、女性が4.8%でした。

年間の定点あたり報告数の計は、栃木県7.06、全国8.62で、全国と比較して0.82倍とやや低い水準でした。

男性は栃木県5.82、全国6.86で、全国と比較して0.85倍とやや低い水準、女性は栃木県1.24、全国1.79で、全国と比較して0.69倍とかなり低い水準でした。
 定点あたり報告数の動向(過去10年間との比較)



定点あたり報告数の動向(全国との比較)



<主な本文出典>

感染症サーベイランスシステム (NESID)

・全国定点報告数

令和2(2020)年:公開データ(年報)【2021年3月8日作成】

令和元(2019)年:公開データ(年報)【2020年10月31日作成】

・栃木県定点報告数(週報)

令和2(2020)年:公開データ(週報)【2021年1月8日作成】

令和元(2019)年:公開データ(週報)【2020年1月8日作成】

・栃木県定点報告数(月報)

令和2(2020)年:公開データ(月報)【2021年1月18日作成】

令和元(2019)年:公開データ(月報)【2020年1月15日作成】